

資料紹介

海軍軍属武田勝太郎の戦時期アンボン・バリ滞在記録

後藤乾一編・解説[†]

Memoir of the Naval Military Administration Official Takeda Katsutaro on Wartime Ambon and Bali

Ken'ichi Goto

During the Pacific War, the Japanese military occupied Indonesia; Java and Sumatra were placed under the Army's jurisdiction, while the rest of eastern Indonesia was placed under the Navy's control. In this memoir, Takeda Katsutaro, a technical official of Ministry of Agriculture and Forestry, describes his experiences and his knowledge of Ambon and Bali, developed during his service in the Seram Civil Administration. Takeda wrote this diary-style memoir about his wartime experiences after his demobilization in 1946, one year after Japan's capitulation. As a civilian employee of the navy, he was not in a policy-making position during the naval occupation. Rather, this memoir is a unique record of Takeda's own daily life during the war, his duties and his views on social and cultural situations where he was assigned. Presented in a lucid style, this important narrative describes eastern Indonesia and the Seram *Minseibu*, on which basic documents are scant.

解説

本記録は、「大東亜戦争」勃発半年後の昭和 17 (1942) 年 6 月、当時農林省秋田営林局に勤務していた武田勝太郎氏（以下、敬称略）が日本軍占領下のアンボン、バリに海軍民政部職員として徴用された時代の滞在記録である。

当初、武田は海軍南西方面艦隊セラム民政部付海軍軍属に発令、セレベス（スラウェシ）を経てアンボンに赴き、8 月 1 日に新発足したセラム民政部職員となる。翌昭和 18 年にはバリに移り、2 月 15 日に同島北部の要衝シンガラジャに発足したセラム民政部（小スンダ区域を管轄、4 月に小スンダ民政部と改称）農林水産課庶務主任に就任した。⁽ⁱ⁾

日本敗戦後、連合軍の上陸とともに武田ら民政部職員は捕虜収容所に抑留、1 年後の翌昭和 21 年 8 月、内地に帰還した。帰国後、武田は農林省に復職、昭和 39 年に退職、昭和 50 年に病没した。

小型ノートに丹念な文字でしたためられた本記録は、表紙に「元蘭領東印度渡南紀行 自昭和 17 年 6 月至昭和 21 年 8 月」と記されているが、実際には昭和 18 年 3 月で終わっている。また日記体を取っているが、記述は戦後日本に帰国してからなされたものと思われる。内容的には、真面目な人柄の農林技師らしく、海軍軍属としての日常の生活や勤務振り、そして各地の社会・文化状況が淡々とした筆致で

[†] 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

綴られている。小スンダ地方の日本占領期⁽ⁱⁱ⁾に関する一次資料が極めて限られている中で、本記録は一定の貴重な情報を伝える資料となっている。

武田没後、本記録は愛夫人より民政部時代の僚友平川一夫氏を通じ、バリ会（戦時期バリに駐在した日本人を主とする親睦団体）に寄贈された。その後同会名誉会長で元海軍司政官・小スンダ民政部農林水産課長であった河野恒雄氏より、武田愛夫人の御了解を得た上で、平成 11 (1999) 年 7 月に編者に取り扱いを一任されたものである。⁽ⁱⁱⁱ⁾

日誌

昭和 17 年 6 月 6 日（実際の記述は、17.6.6）

秋田営林局秘書課から昨 5 日古口営林署に電話あり、南方行きの件に付至急上京せよとの通知あり。聊か吃驚せるも南方に雄飛せるに絶好なる機会と考えたり。

当初の予想は花田乾助技師一行の「ビルマ」方面産業調査団に同行すると思はれたるも、兎に角上京打合のことに決意して、新庄発夜行にて出発す。

6.7

朝東京着、直ちに麹町区農林省、山林局に出頭す。小憩の後監理課大沢事務官に面接、概要の説明をうける。

海軍民政府管下セラム民政部付として大沢事務官と同行とのこと、直ちに快諾を与え、出発事務手続につき種々指示をうけたり。

その際決定せる顔振れは山林局関係では、

深谷技手 業務課

森田技手 東京営林局

秋田営林局からは小生の外 3-4 名の希望者ありたる由、以後半生の運命の岐路になりたり。

山林局においては、木材統制課並木理事官、清水技師、深谷技手、三浦技師、柴田技師等と面接す。午後の夜行にて上野発

並木さんは終戦時広島原子爆弾で不幸にして死亡されたが、渡南後よくその人徳について、大沢さんが話しておられた。

6.8

古口帰着、事務整理と挨拶廻りで、多忙なり、当時戦時色愈々濃厚、出征兵士は続々と前線に出陣、村は挙げて戦国調、兵隊を乗せた軍用列車が真夜中、陸羽西線を通すること頗々なり。従軍中の身分は海軍々属として、原職のまゝ南方に赴任、任期は約 2 ヶ年との事なり。

当時の戦勝気分よりみて、よもや敗戦、捕虜の身となり、死生の境をさまよい、心身共に疲労困憊、乞食さながらの風情で敗戦の故郷に辿り着くことになろうとは、夢にも思わなかつた。

6.9

秋田営林局に挨拶のため出張する。

即日とんぼ帰りで帰村す。磯部秘書課長その他旧知の人々に、あわだだしく挨拶する。

6.10

朝から村内及び山の内方面を廻る。午後から高屋において山の内の人達の心からの送別会ありたり、これで、思い出の山の内の風物、山の内の人々、高屋、杳喰、大外川、小外川、土湯、柏沢、栃台の部落、常宿として永年世話になった八郎兵の方々感無量の思い出となりたり。

6.11

午前中古口村有志の送別会を桶渡魚屋において開催せらる。小林村長、吉田助役以下四十数名出席し、盛大にその壯途を祝福さる。

秋田から岩瀬及び赤石の両親来たりたるも、故郷の両親に、ロクに話しもせず、このまゝ出発するは聊かの心残りとし、あとに残る妻子にも後髪を引かるゝ思い乍ら、心を鬼にして、若い愛子に後事を押し、午後7時、あわただしい見送りをうけ、観呼の声に送られ古口駅出発、新庄発9時の夜行にて上京する。

6-12

朝上野着、山林局に出頭大沢事務官と打合せ、先づ落付先を澁谷区幡ヶ谷本町高橋敬三宅に置く、

自 6-15 至 6-24

本日付をもつて南西方面艦隊セラム民政部付を命ぜられ、後は出発を待つ許りとなりたり。

高橋さん宅から毎日海軍次官々邸（溜池）に集合連絡並びに渡南手続をなす。

次官々邸までは相当の道程にして、毎日気疲れする。19日頃愛子が子供を連れて上京し、高橋宅に投宿す。いろいろ迷惑をかける。

山林局には時々出頭し、第二次出発組の田村正君に内地にくばる挨拶状その他細かい用事を頼む。ルックサック、洗面具入れ、浴衣地その他を買い求む。軍刀一振欲しかったが、遂用意出来ず、手持ちの森林主事任官の短剣を間に合せに持ったが、渡南後矢張り軍刀は必要であった。

滞在中農村更正協会塩田定一氏、企画院第6部東畑四郎（元秋田営林局事務官）元山林局長田中長茂氏等に面会大いに激励せらる。企画院平田調査官に逢いたるところ、同氏も民政府農林水産課長として行くとの話しあり。産業局長は岡本直人氏にして、当時農林省資材部長の職にありたり。

一夕農林省出身者の送別会を岡本局長の招待にて開催せられ、ビールを馳走になる。

出発間近になりしたため、23日愛子達を帰す。赤羽まで見送りたいも、則子2才にて、未だ父の顔判らず、邦子は6才なるも幼少物心あるも、赤羽駅では寝ており、起すのも何となく可愛想で、そのまゝ別れたが、南方に赴任してから、赤羽駅車中での妻子の面影脳裏に焼きつき、これが今生の別れになるやも知れず、子供達を起こして来るべきだったと思うこと幾度、

当時川崎市に在中の富士電通信 KK 紀三男氏も来たり愛子も喜ばれる。

24日次官々邸に集合せるに明日出発の通知を受く、民政府、セレベス、ボルネオ、セラム各民政部の順で整列し、人員点呼あり、明日午後3時横浜埠頭集合の命を受く。その夜は高橋宅にて準備万端整う。

高橋さんにも本当に親身のお世話になった。餞別として茶器1組送らる。荷物は箱1個はすでに出しており、トランク1つなり、浴衣は間に合わず、あとで高橋さんから田村君に頼んで貰うよう依頼す。

6-25

次官々邸に集合最後の打合せをなす。

高橋宅にて中食をなし、酒魚にて送別、壯途を祝福さる。紀三男さんも来たり、1 時 30 分出発、省線にて桜木町まで紀三男さんに送らる。駅に着くや大雨にて埠頭まで歩行困難、且つ時間無く、大変あわてる。幸い通り掛りの車あり、これも幸い 3 時に乗船の同行の人に便乗し、時間ぎりぎりに岸壁に到着はつとする。その時すでに整列を終り、乗船開始していた。間一髪のすべり込み、セーフであつた。荷物の検査もなく直ちに乗船横付けの船は、鎌倉丸 1 万 7 千屯の豪華船で、浅間丸と同じく、日本では最大の客船なり。当時優秀船はすべて海軍、陸軍に徴用され、兵員、物資の輸送に当つた。去る 3 月に太陽丸沈没事件（長崎港外）は前途有為の日本の民政用員数百名瞬時にして敵潜水艦にやられ大損失をうけたあと、われわれはその 2 陣ならん……第一次太陽丸は戦勝気分、ドンチャン騒ぎで出航、何等防諜の措置なくして、この惨害に逢つたもので、若しも吾々が第一次の軍政要員だつたらと思うと、どうなつたろうか。

17 年の初めにおいて、すでに敵潜水船が日本近海に出没するあり、前途安心ならず。

そのためか鎌倉丸は警戒嚴重を極め、横浜港を離水しも、港外で 4 日間滞在して敵潜に用心した。客室は中甲板の 2 等戦室なり。1 室に 2～3 名上甲板には倶楽部あり、読書、碁、將棋、あり、食堂は又広く、食事も内地ではすでに不足勝ちなるも、本船は食料豊富、野菜、肉、魚、コーヒー、砂糖、時折刺身、果物も食膳に出る位なり、風呂も海水乍ら時々あり、上り湯もあり、全く戦時下としては贅沢というべく、さすがに欧米航路の豪華客船というべきなり。

6 月 26 日から 28 日まで毎日横浜の街を霧の中から眺めて出航を待つも依然として本船は動かず、ただ聞ゆるは、ディーゼル機関の特有の音のみ。船内は相当に暑苦しく、甲板上では海風あるも、港の水は大変穢い。

6-29

港外の停泊も聊か飽き出した頃、本船のエンジンの音漸く大きく響き、出航となる。船は次第に横浜港を離れ、横須賀沖を通る。この頃になると甲板に出ることを禁ぜらる。日ねもす船室に閉じこもる。

出航時の鎌倉丸は警戒嚴重を極め、駆逐艦 6 隻を以て護衛せられ、安堵せる心持なり。本船は 16 節の快速東京湾を出る。

自 6-30 至 7-8

本船は次第に東京湾を南下し、横須賀沖を通り次第に懐しの故郷の山々が視界から消えるに及んで、これが数年の見納めから聊か感傷的になる。やがて、本船は小笠原列島の東側を南下する。

こゝら辺は東京から 1,000 軒巨る洋上、いわゆる日本列島から小笠原火山帯に横わる日本海溝、世界最深の海洋にさしかゝる。

一望千里大海原にして、連日海又海、水又水にして、一つの陸地見ゆるなし。日本近海の汚い海水も南下するに伴い次第に澄み来たり、太平洋の海は青色から濃藍色に変わる。船は一路南下し、やがて比島東方洋上に差しかゝり、海は愈々静かなり。

海又海の洋上生活もだんだん倦怠となり、日ねもす甲板に出て高杉氏と碁や將棋に時間を過ごす。

小笠原をすぎる頃から護衛の駆逐艦も次第にその数を減じ、比島沖では先頭に大型艦一隻のみとなり聊か不安感が伴う。嚴重な燈火管制と毎日の救難作業演習や体操をやり、運動不足を補う。

海は全く静かで、本船はその海をすべるように一路南下し、次第に赤道に近くに伴う大変暑くなる。

この船旅を通じて、山国育ちの自分にとって印象的なことは、海は広いこと、海の色の変化の神秘的なことすなわち日本近海の汚れ色から薄空色→青色→藍色緑色→濃藍色千変万化、特に夜間の海はすばらしい。夜光虫とプランクトン誠に神秘的な一瞬引き込まれるような気掛になる。

本船は比島南端よりスーラ海に入り、マカツサル海峡を通り7月8日待望のマカツサル港に入港する。

まず初めに驚いたことは真赤な腰巻をした土人が岸壁に択山たむろしていることなり。顔色あくまで黒く、眼光のするどい原住民であった。マカツサルでは直ちに民政府、セレバス、ボルネオ各民政部は下船し、荷物の陸揚が始まる。セラム組は市内見学のため下船し、海岸通りの商店で買物をする。物価の安いのに驚いた。サロン、手拭その他日本に不足していた綿製品が特に目につく。マカツサル市はいまだ内地と比較して物資豊富なり。三輪車（ベチャ）で市内見物、ベチャは自転車の前にうば車をつけた人力車で車賃は当時1キロ5銭位なり。夕刻帰船する、船室は非常に暑苦しい。蒸し風呂なり。

自 7-9 至 7-11

本船はマカツサル港を離れて、半島南端プートン島沖を通り、バンダ海に入る。船には最早セラム民政部しかない。清水長官の訓示あり、途中の危険は益々大きくなり、一日も早く目的地アンボンに着くことを望む。

バンダ海を一路東進し、11日正午頃愈々アンボン港に入港、1万7千の巨船は港外に静かに停泊する。

甲板上に立ちて市街をみれば、後ろに山を控えた良港にて、海岸の平地に街が拓け、樹木多きため、海岸通りの建物の外、余り眺望なし。この港が過去数百年間のポルトガル、スペイン、英国、フランス、和蘭、支那大国の侵略の基地であったとは不思議である。

午後3時頃から下船開始、初めて見る赤道以南の南半球の街、見るもの聞くもの皆珍しい。岸壁にはすでに3月に来た先遣隊民政部要員多数出迎える。手荷物だけ持つてまず宿舎に向う。下船を終り先発平野政務部長の話しあり、色々注意事項あり、宿舎の準備未だし、取敢えず、市内の空家に入る。

判任官は広場の西側住宅街へ落付く、一軒の家に大体8人収容、高杉、石田、村山、浅利、奥田、稲岡、小田川に小生の陣容なり。間数4間、一室2人づつ、やがて寝台、蚊帳等運ばれ、落付いた時には、南洋の日もすでに暮れていた。夕食を終りベランダへ出で、乗船以来の話に花が咲き、深夜寝につく。南洋の第一夜はまずまずの良好の印象なり。これで安着の報せを故郷にある妻子に知らせたいと思った。

自 7-12 至 7-31

アンボンは目下雨期に当たり、連日降雨あり、内地から持参した洋傘は大変役立つ。市内治安状況並役所の機構等完備せず不安の気持にて、方々に出歩いて話をきく。

毎朝8時長官々邸に集合して朝礼の外は大した仕事なし。宿舎は高等官、判任官、雇傭人、女子等相当な範囲に拡がる。事務は先発隊でやっており、引継は当分先の予想、友人と毎日市内見物かたわら日用品を買う。アンボンはマカツサルと異り、すでに物資の不足が目立ち、靴などはなかった。

アンボン市は人口1万2千位、アンボン人多く、支那人、アラブ人は商店を経営し、割合に小綺麗な町並なり。アンボン人はインドネシアではジャワ人、マカッサル人、メナド人等と共に智識が高いため、時の政府の下級官吏、軍人、警察官など旧蘭印時代に大いに活躍し、宗教はキリスト教で、原住民の感情は表面は良好に見えたり。子供達は純真でよく遊びに来る。食事はビクトリヤ兵舎より配食、兵食にして野菜物少く、南瓜、芋類等の副食物にして上等と云うを得ざるも、内地を考えるとぜい扱は云えず。

ここの雨期はスコールの様なドシヤ降りではなく、一日雨の日あり、恰も内地の入梅模様にて、湿気多く、いやな期節なり。年雨量3,500ミリで蘭印第一と云う。ために市内の川、底地及び道路は水漬しとなることあり、その雨の中を毎日官邸に通うのが唯一の日課なり。又暇をみては持参せる碁、将棋をやる。時々大沢さんの宿舎に出かけて話を聞く。大沢さんと一緒に時々杉村事務官の宿舎に遊びに行く。先発組の大場、米沢氏も加わり、色々珍しい話を聞く。先発隊は兵隊の中に入り、大変苦労したようだが、マレイ語うまく、うらやましく思う。矢張り必要は発明の母なりというが、語学は本当だと思う。

杉村氏は大沢氏と東大同期で通産省の少壮官吏、その下の米沢、大場氏も全く都会人としての洗練さがみられ、私のような農林省の土臭い役人とは大分違うなと思った。

来た当時の爆撃の恐怖など聞かざる。

昼はホテルで馬來語の講習あり、竹内通訳が先生、一生懸命やるも中々上達せず、語学は実際の学問とあり、町へ出て小供をつかまえて話しをする。

果物はバナナが多く、宿舎ではいつもバナナあり、時々外出しては、コーヒー、菓子が楽しみなり。

8-1

愈々民政部も店開きと云うことで、旧民政部の廳舎を改造大掃除をするに丸2日かかって漸く入る段取りとなる。朝は国旗掲揚、形の如く朝礼に始まる。

当初の民政部の機構は左図の如し。

7月から8月にかけて、民政部の出先の機構充実のため続々要員の派遣ありたるも、遠くの島々は未だ載定作戦終らず、これらの島々は海軍による載定作戦と同時に民政要員が追従する状態なり。

アンボン攻略記

昭和17年1月10日アンボン陥落 海軍はヒトラマ海岸に上陸、ラハ飛行場に向う。一方陸軍は反対側から上陸し、アンボン市を攻撃せるも、海軍側は苦戦に陥り、陸戦隊は殆んど戦死、隊長家木中佐も戦死した（それを記念し、後に市内に家木通りの名称をつける。）アンボン守備の敵兵も勇敢に戦い、辨天台砲台より砲撃により、海軍の小艦艇は強行捜海せるも大部分沈没せしめられたものにして、こゝアンボン島は第二次大戦の激戦地であつた。

8-2 以降

開設当時一番困つたことは、言語の不通なり。船の中又講習で教えた馬來語は間に合わず、徒らに単語を並べて原住民の職員と連日、冷汗をかきながらの奮闘、用事がある原住民が来るとこれ又大変なり、一つの事を話するに30分から1時間もかゝる。幸いにして、ソレマンが自分の秘書然として、片言の日本語を混えて通訳してくれ、大分助かつた。



アンボン州 (塩見) → アンボン市長 (塩見) { 大橋, 嶋原
山下, 原住民

マノクワリ州 (横大路)

ファクファク州 (林)

バボ州 ()

農林水産課の陣容

課長 (大沢) → 岸, 穴倉, 小坂, (武田) 西村後に二の宮加はる。

原住民側 → リリパリ, ハキム, ソレマン, マノンブテ外 3 名

高杉氏は 7 月下旬マノクワリへ派遣, 後ニューギニア産業調査団に加わる。

奥田 (マノクワリ) 小田川 (テルナテ) 池 (バボ) 石田 (サパルア) 松本 (ドボ) 稲岡 (トアール)
その他外領に駐在するもの多し。

最初の仕事は食糧の配給, 荷役, 倉庫, 保管等の作業なり。ソレマンと二人で毎日倉庫と役所をかけ持ち, 大多忙なり。

そのうちに漸次マレイ語にも馴れ又宿舎も次第に整備され, 食堂マタハリの向いに一軒貰う。この宿舎は小坂, 西村, 小生の 3 人それにジョンゴスとして 1 人の老人を使う。非常に真面目な老人にて宿舎の皆が帰宅しなければ家に帰らない。仕事は部屋の掃除と洗濯物を出すこと位なり。

当時街の民家にも各人各様いろいろ知己が出来, 子供の出入繁くなる。前隣りは岸, 穴倉の宿舎, 横隣りは主計課員の宿舎, 又近くの通りに民政部直営食堂と撞球場開設

当時の日課表は

8,00 朝礼事務開始

12,00 中食, 午睡休憩

14,30 課業始め

17,30 終了

18,00 夕食

朝食は果物にコーヒー……これはジョンゴスの仕事

新居に移りたるも、自炊用具なく、当分は元宿舎でまとまって兵食を食べる。然し毎日南瓜、芋類ばかりで大抵は外食する。

こゝで農林水産課の仕事の内容を述べると、

まず食糧の配給を根幹とする。これが又治安上最も重要なり。品目は第一に粳、米、砂糖、塩、茶、小麦粉、罐詰等であつた。粳は蘭印政府の貯蔵米の押収品、1万俵以上ありたり。これは運輸部の倉庫にあり、民需米としてP.P.R（インドネシア消費組合）及び中華協会（華僑の組合を新たに作らせた）及び附近の島々の配給なり。米、砂糖、塩は輸入品、茶、小麦粉、カンヅメ等は押収品を配給す。小麦粉は非常に大事にして可成り後まで残すようにした。

配給制度

前期の如く、アンボン市内では、原住民はP.P.R.を通じて、支那人は華僑組合を通じて、一括配給、又地方の島々は先に樹てた配給計画に基き、毎月一回配給とし、島から取りに来る。大体小船（プラウ）で見返り物資として、コブラ、丁香、パラ、ダマール等を積んで来るようにする。この収入は主計課に納付する。

消費規正

アンボン市内では日本人初め主要事業労務者用はこれを制限配給を行う。即ち一般人一日 350 グラム、重労働労務者 500 グラムとす、ガララ収容所の捕虜は 500 グラム配給す。

日本人料理屋、慰安所、食堂を経営するもの次第に多くなり、これに対しては、相当にきつい制限を加えたり。これがため業務用の制限に対して批難を受けること屢なり。

配給計画

月別計画を立てたるも、その数量莫大にして、これが輸入及ばざるため最少必要限度に押え、年間消費量米 18,000 屯月間 1,500 屯の輸入計画を立て、配給の方はこれに基き、各地の人口及び食習慣を参酌して定めたるも、人口統計や土人の慣習判らず、殆んど見込計画になりたり。南方での計画はすべてこの困難に打ち当たる。

配給地区はアンボン市内、サパルア及びハルマヘラ島、セラム島（ピルー、アマハイ、ワハイ、ゲセル）ハルマヘラ地区（テルナテ、チドレ、バチャアン等）バンダ諸島、アルー及びケイ諸島、ニューギニア方面（マノクワリ、ソロン、バボ、ファクファク）スーラ諸島、ブル島（この島はササナの警察署長が取りに来る）などで、アンボン州も数百に及ぶ広大な海域に散在する大小無数の島々から成り、人種言語のちがいと統計、文化の低さは到底内地の者の理解し難い実情であつた。

荷役作業

これは交通課ト、タイアップして、まずトラックの交渉から始まる。次は陸軍警備隊と交渉して、ガララの捕虜の出役を要請。当時第一虎丸は海軍輸送船として、毎月1回必ず入港、それに鎗安丸その他輸送船随時入港するため、たまに石炭栈橋で荷役作業あり、その能率低下す。虎丸級の小型は大体1日、鎗安丸(2,000 屯)の時は大体3日を要したり。

交通課は大体岸壁を受持ち、農水課は大体倉庫ということで、分担したが、初めの頃は中々しつくり行かず、種々の問題ありたり。捕虜は濠州兵は規律正しく、大体よく働いた。特に幹部將校は敗戦でも優秀であつた。休憩中に煙草(ほまれ)与えるも先に一兵卒から渡し、無くなれば將校は取らない。

作業は午前、午後、夕食後の三直交替とする。作業中の監視は陸警の兵隊がこれに当たり、吾々も腰に拳銃、防暑服といういでたちであつたが、捕虜は濠、蘭人共体格良く、砂糖袋は麻袋入れ100 kgで、持ちにくく、手鉤を使わぬようにしたが、中には袋が破れ、砂糖こぼれ、砂混りのコボレを拾う捕虜の姿はいかにも可愛想であつたが、とに角軽々と、かついで倉庫に積み重ねる怪力には驚き入った。

この捕虜の立場が逆になって、日本人が報復されるとは、当時思いもよらないことであつた。

それにしても、この砂糖袋の山積みは、当時すでに内地では、甘味不足の時に、本当に内地の人々に見せたい物資の一つでした。

倉庫整理

当初は押収初倉庫(慰安所の近く)及び海岸通りの敵産の倉庫位なりしも、次第に狭くなり、倉庫の拡充整備をはかる。まず第一に元中学校に入れ、次は師範学校跡に入れる。これはトラック入れるため門の棚までこわし、文教課長から文句を云わる。文教課では、来る4月に師範学校開設とのことなるも、こちらは作戦第一にして、文教政策まで考えず、その次は大通りの「デパート」跡に作る。この仕事は毎日出歩き相当うるさい。戸締やら鍵のことで心配多し。

又倉庫であつて、整理して使用せるものに大沢さんの宿舍で、元コプラ倉庫で、非常に乱雑なるも、これを掃除し、大沢さんと私が引越す。これが、あとと大変印象的なアンボン起居となりたり。

その外教会跡、小学校など大抵初を整理し明け渡したり。

木材関係

モルツケン地方は、いまだ林政としてみるべきものなし、僅かに保安林制度の調査位のものなり。役人もただ一人、林務官が駐在した程度なり。

木材の需要は、作戦用および復興材等で相当多い。然るにアンボンは、戦前から木材の輸入州であり、製材設備もアンボンに一基あるが、これは軍で使用中で、ニューギニアに南興農場に製材機あるというも、大したものならず、従つて木材では相当苦勞した。即ちアンボン栈橋、道路、建築用材として、アンボン本島内、セラム島より丸太を集め搬入せり。戦前ドボに敵産の製材機ありたるも経営者の逃亡の際部品を持去つた。材種は主に鉄木多く、その他雑木を使用せり。

物資動員計画

物資調製課(境田、岸、穴倉)の仕事なれども、資材は殆んど農水課と関係深く、材料はすべて当課で造れるもの多し。第一開発物資、第二必需物資に分け、戦前の輸入統計等を参照にして物資交流計画

(対内地、対現地、対民政部)等事務的なこと種々あり。計画の主なるもの下記の如し

1. 開発物資

- a. コブラ…接収コブラを主として、新集荷はテルナテ、ニューギニア方面で年産2〜3千屯
- b. ダマール…潤葉樹の樹脂 種々の製果あり。
- c. コーパル…針葉樹二葉柿科の樹脂 Agatis Alba 前2者はモルツケンの主要産物にして、ニューギニア及びセラムに生産され、この用途は各種塗料、ワニス、殊に艦船塗料として欠くべからざるものなり。年産1,500屯位でコブラと共に初めはパラオ経由日本へ送りたるが、その後漸次マカサル、或いはスラバヤに送るようになった。
- d. 丁香…モルツケンの特産にして、アンボン、セラム、サバルア等年産300屯位 用途は多く、土人煙草に混入する。又丁香油とす。商品としては枝及び実の二種類あり、当時の価格は100kg f300内外なり。
- e. パラ(肉豆蔻)は丁香の木にやゝ似て樹高12〜3米に刈込むも、商品は花パラ、及び実パラの二種あり。花パラは高価なるも虫害あり、保存困難なり。用途は調味料に入れるか香料原料とす。年産600屯位
- f. 白樹油…ブル島の特産にして、やせ地に出来る。灌木の葉を蒸留して造るものにして、戦前は支那人により簡単なトタン板の蒸留器で瓶に詰めて売り出した。用途は原住民家庭薬剤として愛好せられ年産30屯位、四合ビン1本の価f200位
- g. 黄麻…南洋興発がニューギニアで栽培に着手して、一部成功を収めたるをもつて、新にハルマヘラ島カウ農場を開設し、その開発に従事したり。即ちha当り租せんい2屯にて、3ヶ年計画を樹てたるも後にこの農場は飛行場及び自給菜園として収容され駄目になった。
- h. 野菜の栽培
軍需及び一般民需の需要は次第に多くなり、現地自給を初めたり。初めにラハ農場にて南興ややりだし、その後民政部直営の農場として、カテカテに初めた。尚トレホ街道に大規模に初めた。土地悪く種子、農具、農薬も十分でなく、苦勞した。後カテカテ農場は小坂氏の主唱で地方青年を集めて農民道場式に変わり、生徒を募集せり。この計画は大体成功し吾々がアンボン引揚げまで続き、のちにはセラム島まで栽培を拡張し、地方青年を逐次養成せり。この中心はパラオの熱帯産業の研究所卒業生を以てこれに当てたり。

受命担当者 アンボンにある担当者下記のとおり。

1. 南洋興発…元南洋貿易とパラオにある南興と合併、マカツサルに支店あり、所長は武川氏なり。コブラ、ダマール、コーパル、黄麻等の物資の集荷、後に生野菜の栽培及び集荷も実施せり。又練兵場前に喫茶店も経営す。
2. 南興水産…主として水産漁獲をなせるも、資材不足のため大した漁獲を得るに至らず。
3. 金城組…戦前からこの附近中心として進出せる者にして個人商社ながら中々の活躍、鰹を取り鰹節にして、内地に送りしことあり。
4. 国際電気KK…進出後大した仕事をなさず。

5. 日の丸航運…塩原氏を中心とする海運業者にして、元は塩原海運と称したり。
6. 若竹…士官用食堂及び料理屋を開業、その他原住民朝鮮人慰安所経営のため来るものあり、この種事業は南方には不必要ならん。
7. 支那人の企業…戦前の物資は凡て華僑の商売するところなりしが、日本商社のため大きいものは接収された。

陳墜^{タントイ}を主とする事業即ち丁香、パラ、白樹油、ダマール等を集荷してこれを民政部に出させたり。この陳墜は後に民政部の命を受けプラウを仕立てスラバヤと交易する一方自らもスラバヤに赴き物資集めに努力したが、次第に交通危険となるに伴い、アンボンに帰れず、単身スラバヤに残り、後にバリ島に來たりし人なり。陳墜の倉庫の前でよく荷役をしたことを思い出すが、この人は誠に商機を見るに敏にして、華僑中の代表的人物で、私は当時としては珍品のオートマテック、ウォータープルーフの腕時計（2ギルダール半）を貰ったが、この時計は20年間持っていたもので、服部時計店で部品なく遂に廃棄したが、思い出の時計であつた。

又この陳墜を使つた大沢さんも実に先見の明ありたり。

アンボン生活記

アンボンというイメージは、物の本によれば、モルツカ諸島における政治、軍事の中心地にして、実に数百年の長きに亘つて、旧蘭印侵略の基地として、栄えたところで、世界でも珍しい香料を手に入れるため、過去幾度か血を流したところである。

世上赤道直下のエメラルドの眞珠といわれ、又香料群島と称して、その名はすでに欧州諸国に有名であつた。

さてアンボンの生活にも次第に馴れ、居心持良くなる。最初の宿舎には小坂、西村の諸氏、酒類豊富なりしを以て、よく飲み、よく語りたり、時に「ニューギニア」の連中尋ね來たり歩き廻る。アンボンの雨期も10月になると漸く勢が劣え、そして本格的な暑気が訪れる。日中は流石に暑く、30～33℃になることあり。南興の喫茶店も開店、金城組の海岸通りの飲食店もあり、マタハリ食堂と共に日本人のよき遊び場となつた。

酒類はブドウ酒類多し、この頃になると慰安所も大繁昌でテルナテ人、アンボン人、朝鮮人等何れも満員の盛況なり。

映画は毎日あり、概ね古い日本物、ニュースであつた。新聞は邦字なかりしも、原住民新聞「シナル、マタハリ」発刊す。友人村山氏とはよく遊び廻りたり。支那人の家に行き、いろいろ馳走になり、日本語を教え又マレイ語を習う。

小坂氏は社交性あり、よくチャリ、チャリをしたり、原住民の家に遊びに行き、白靴を台無しにし、よく、ジョングスを手こずらせたものだ、又隣りの主計課の宿舎は、よく酒を飲み、酒乱の果、喧嘩をする。足立その他沢山の猛者あり。又民政部直営の「ビリヤード」兼食堂は連日大繁昌、よくこゝで宴会をした。邦人女子も張り切るものあり、壯觀なり。女子宿舎は依然として元の処で、政務部長直属監督し、外出時は官房主事の許可を要したり。經濟部のタイプには、よくこぼされたものなり。南條、丸山、その他農林省木炭課出身の長井女史衛生部勤務であつた。友人として主なる人々の思い出は盡きない。

官房…澁谷、この人は、のちに Bali 島にて病死人格者で惜しい人であつた。杉本、青年紳士
長官秘書に諏訪部¹²氏皆に嫌われ、陰気な性格
官房主事はノレンに腕押しで、本当のこと中々云わず。

警務…村山これは親友、遊び友達

ソレにサパルア駐在の石田さん、この人は秋田県出身

主計…田中登、足立、長井、田中富太郎、河田、長谷川、福島に諸氏それに若い筆生連中

財務…近森、高知県、この人は当初経済部長付で多忙なり。

交通…渡辺、木村、片野、秋葉、新井の諸氏、この課はよく口論の絶えない人々であつた。

商工…米沢、大場、インテリ―青年紳士

物調…岸、穴倉いずれも無口屋

農林…小坂、二の宮、西村

衛生…前沢秋田県北出身、羽毛田

鉱産…大貫秋田鉦専出身、稲岡、小田川

文教…浅利、奥田

土木…西長

それに官房運転手の蘇原、瀬戸はよくあばれる。

新しい宿舎の日常

10 月頃コブラ倉庫を片付け、大掃除、ペンキ塗り、扉取付けせるに、非常に立派になりたり。

部屋数 4 つ、それに食堂が広い、この宿舎は大沢さんが私費を投じて、恐らくアンボン随一ならん。
一度清水長官立寄り褒めて行つた。大沢さんと私の二人暮らしなり。使用人は Baboe, koki 2 人、Baboe は Sarni と云つて中年の女、非常に朗かな女にして、オシャレなり。まるでこの家の主人公の様な振舞い、夫は無職者時々裏の部屋に来たり、物を食ふ様子、koki は之 40 年配なるも、小綺麗なばあさん、白髪混りの頭をしながら、着物は大変オシャレである。買物は決して自分で持たず、小供に駄賃をくれ、持たせる。

朝はコーヒーに果物、晝は簡単にして、夜はご馳走を択山作る。鶏は当初 50 銭位であつたが、あとでは 1 円 50 銭位となれり。果物はバナナのほか、殆んどなし。パインナプルは時々あり。それにパパイヤ、肉類は余り無きため毎日鶏を 1〜2 羽つぶす。

当時は未だ日本酒及びビールあり。毎日飲む。ビールがなくなると大抵商工課から捲き上げて、わが家には大抵あつた。時々他家に取られること多し。2 人でよい機嫌になり、10〜12 時稀には 2 時頃まで夜更しすることあり。

ここで誰つの楽しみは、前隣の Toean, goesti の家と知り合になりたることなり。グステはソロ王様の弟で戦前からアンボンに在住、国元から俸給を送られ（800 値）裕福な暮らしであつた。家族は第 4 妻に子供は長男金太郎と長女ユスリアン 2 女サブデ 3 女コスアンボイナの 4 人それに下女及び Baboe, koki の 8 人暮らし、グステはアンボンの長老にして、博識当時民政部の政治顧問金太郎も民政部に使わる。大の日本研究家で、天皇制、宗教等関心を持つて話しかけられ、いつまで経つても、中々帰らしてもら

えず弱ること屢々なり。

ここの子供達とはいつしか友達となり、これが昼夜の別なく遊びに来たり、非常に賑かに、歌え踊りをやり部屋の中を走り廻る。恰も内地で子供と一緒に暮らしているような錯覚を覚ゆる。これがため異郷にて 1 人暮らしの孤独感から救われた。

夜は大抵 11～12 時子供達居り、Baboe が迎えに来てから、漸く帰る状態なり。ユスリアン 12 才、サプデイ 10 才、コスアンボイナ 9 才丁度可愛い盛りなり。一緒に写真を撮ったり、食事をしたり、この思い出は南方在住の忘れ難い思い出になった。

又時々来客あり、週に一度は女子を呼んで食事をする事あり、支那人から時々馳走持ち来たる、主として菓子、カステラ類なり。

又原住民職員を呼んで大々的に食事をし、歌や踊をせり。

アンボン州庁の女事務員「マノンプテ」女史の子供（男 10 才）も来たり、又当方からも遊びに出かける事あり。わが家の使用人は元バトガジャの杉村氏の使用人と同類なるをもつて、毎日お互に出入し、台所の材料は恰も同一家族の如く、共通財産で、米や小麦粉、ビールその他無い時は、お互に持つてくる。この点は日本の家族単位の生活に比べて全く開放的なり。何か宴会があると杉村氏のコッキーが大きい図体の色黒の女が出張して来て、色々指図をすることあり。

大場君の Baboe Rena という色黒の人おりたるも、大場君スラバヤ出張不在中辞めて金城の食堂に勤めおりたり。

山の手のアラブ人家族の子供がよく遊びに来たり。親爺はセラム方面で商売をして生計を立つ。

中通りのアンボン人の家にもよく「マンデイ」に行つた。夫婦と子供数人の賑かな家庭、ここの母親からいろいろ家庭道具を買つてもらう。長女があとに南興喫茶店に勤めていた。

運動・趣味

時々コートで下手なテニスをやるも中々上達せず、第一コートでは上級組がよくテニスをやる。メンバーは大沢、杉村、大場、米沢、岸、穴倉、小坂、塩見その他原住民の女史も加わり、支那人リムも混り、毎日 1～2 時間はやる。浅利氏もよく大沢さんとやる。試合の合間にお茶が出る。リムのサービスなり。

ほかに運動としては、休日に郊外散歩、最初は治安良好ならざりしも、次第に平静となるに伴い、市内を離れて、郊外に出ずるもの多し、アンボン南北道路を北はガララを通り、海岸通りにソヤの水上飛行場附近まで、南は辨天砲台の下を通り 12 キロ向うのカンボンまで行く、自転車では丁度よい行程なり。ここの村長は中々愛想よく出迎え茶果のもてなしをしてくれた。海岸は又素晴らしい景色で写真を撮つた。

アンボン南方に「サナトリウム」結核療養所あり、高台で見晴しよく、よく、こゝに散策した。南方の療養所はどこでも整備良く、気持ちよく又光線も十分なり。

その頃郊外の散歩では、いつでも写真機携行、フィルムは大沢さんが農林省から 50 本持参、大沢さんの 4×6 判でよく撮つた。それを町の写真屋で焼付するので唯一の楽しみだ。下手な写真は充分貯まつたが、それが終戦で皆駄目になったのは返す返す残念であつた。

その頃町へ買物に行くも、日用品、サンダル、靴等はすでになく日本人が増えるにつれ次第に品不足が目につくようになった。又支那人で親交のあつたのは、3軒で Rime の家であつた。初めは映画館裏の家、次は村山氏出入りの中通り、練兵場隅の Rime の本家なり。これらの人々は南方進出してから古く、どちらかという原住民の感覚なり。皆驚くべき財産家で堂々たる邸宅であつた。Rime の家は子供多く恐らく 10 人位あらん。然し支那人の子供はどうしたことか、皆要心深く、どうしても好感を持つに至らなかつた。この点インドネシアの子供は何処でも、子供らしい純真さで、感情に忠実で、可愛いものであつた。

アンボン風土記

1. 位置…モルツケン州の中心で、往時香料群島の争奮戦で、ポルトガル、スペイン、和蘭等数百年の圧制下にあつた。

アンボン湾は吃水深く、天然の良港をなし、蘭印では屈脂の港なり。南緯 4°、内地出発する時、香料群島のイメージは非常にゆたかな夢物語りの甘い感懐であつたが、実際に来てみると、予想外に静かな、ただずまいであつた。

2. 気象…こゝは蘭印では最多の雨量で年間 3,500 ミリ、降雨日数 150 日以上、雨期は 6～11 月、乾期は 12～5 月、雨期は一日中降り続き、太陽を見ない時あり。又南方のスコールは物凄いと聞いたが、この雨は、洋傘が用に立つ雨なり。

雨期の気温は低く、夜中は毛布が要る涼しさなり。又乾期は 30℃以上なるも、海風がよく当るをもつて、割合に凌ぎよい。しかし非常に湿気が多く、従つて蚊の発生多く、マラリヤもあり、余り健康地とは云えない。

3. 政治…モルツケン州理事官の駐在地、テルナテ、ニューギニア外附近の島々を監督し、州知事（レジデント）副知事（アシスタント、レジデント）コントレール等の政府の官吏おりたり。軍政以来チモールも之に加わりたり。蘭印政府はアンボン州には、軍事的以外は殆んど意を用いなかつたようだ。

4. 産物…先に記述した。

5. 民族…アンボン人及びその雑種を主とし、パプア、チモール、ミナハサ等混り、元親蘭の中心地たりし関係上、対日対度良好と云えず、即ち彼等は、元軍人、教師、ポリス等と蘭政府に接触し、恰も原住民の上位にあり、インテリ層と自負しており、この戦争によつて失職したるもの多く、中老以上の無職者は概ね反日なり。長年官吏の処世術に長けたる彼等は日本軍政下に入り、他の原住民に比べ、要領よく、頭の冴えを見せるのは、彼等の本能的性質と云うべし。従つてアンボン人は他地区では一様に嫌われ、同じインドネシア人と雖も他民族からは爪弾きされる。支那人は何処でも経済の実権を握り、陰然たる勢力あり。

6. 食糧…水田、畑作殆んどなく、僅かに平地や屋敷附近にキャッサバを栽培するものを散見、従つて食糧は殆んど輸入に頼り、こゝを中継地として、ニューギニア、ハルマヘラ等に再輸出せらる。然して、アンボン文化人はすべて米食なるも、セラム、ニューギニア方面はサゴを主食とす。即ち湿地に自生したサゴ椰子から澱粉を取り、椰子木一本で家族が 3～4 ヶ月食べれると云う。この

粉は若干輸出し、乾燥して、菓子原料にする。澱粉製造方法は、樹の内芯を削り、細片にし、これを水洗い、沈殿する方法による。副食は椰子油、胡椒、乾魚、野菜等なり、野菜は瓜類、芋類、ツル菜等あれどその量大ならず。

家畜も又頗る幼稚にして乳牛等稀まり。山羊は多い。

他地方に見られる企業農業も見べきものなく、直営農場としては対岸の Raha に一ヶ処あり、カボック、珈琲等栽培す。島内に小規模のコーヒー、ココアの栽培地を散見する。セラム島 Roki にココ椰子を主とした農園ありたり。

7. 椰子の木の景観

南方に来て、最初に奇異に思われたるは、ココ椰子の林である。原住民の居る処必ず椰子木あり、年中実が成っている。枝のない樹幹が少し、グロテスクな感じの木が 20 m の樹冠を着けた姿は、正に壯観である。私は渡南いらい、この椰子に限りない神秘と憧れを抱いて来たり、幾度か椰子の葉蔭に憩い又静かな音楽を聞き乍ら遠い故郷の思いに沈んだことか。誠に南方では、椰子は原住民とは密接不離な関係にある。即ち椰子はその用途広く、果実は年中取れ 80~150 ヶ外皮は燃料に、その中の繊維は束子に又棕梠縄になる。果皮はその殻頗る固く、物入れ、水筒の代用として又、これを焼けば上等の木炭になる。土人はこれを食器にする。

果肉は有名なコプラとして、売出され、又自家用食料として、他の主食と混食され、食油、燈油となり、その搾り粕は家畜の飼料となる。

果肉の中の水は若いうちは大変に美味しい飲料水となり、飲水の少い地方で椰子の水をのむのは、何んとも云われぬ味で衛生状態も完全なり。

樹幹は燃料となり、又建築材料となる。掌状に広がった葉は漸次下の方から自然に落ちる。この葉柄は燃料となり、又屋根、外囲いの材料となる。又若芽は食料にもなる。

8. 交通…アンボン島は南北に通ずる自動車道路あり、ドライブ殊の外快適なり。市内の道路には街路樹を植え、舗装道路に快い日陰を与う。この道に添うて散歩は海岸の景色と路傍の風物とは、いつ見ても楽しいものであり、即ち Pala, tjengke の香料の木はよく手入れの行き届いた林、椰子の見事な生え方、路傍の太木、密生せる竹類、珍しいチエマラ（唐松に類似）あり、この地で再三林相写真を取りたり。

総じて南洋の島々は、幹線道路を除き、道路はなく、従つて隣村に行くにもプラウで行くという実情なり。この最たるはニューギニアで内地の 6 倍の広さと云われるが、暗黒の大陸と云われるように、道路とてなく、むしろ小島の方が便利である。波静かな南洋では両側に浮き手のついた木製の小型プラウは唯一の交通機関なり。

9. 文化施設

映画館一つ、支那人経営

電気は火力にて石炭を輸入する。水は量多く良質なり。

病院は市内にあり、サナトリウム 1 ヶ処、癪療養所はハルコ島にあり。新聞は原住民経営のシナル、マタハリ、小学校は原住民、支那人経営あり、中学校、師範学校あるも、インドネシア人は

教育を受けた者僅かに 5%であるが、アンボンでは和蘭の政策により就学率高し。総じて植民地は語学教育盛んで、小学校で和蘭語を覚え、中学校は英・蘭語は一通り話す。この点日本では大学でも、ろくに語学が出来ないのに較べ考を要す。

又インドネシア人は幼少から音楽的天賦の能力あり、楽器は笛と太鼓なるも上流家庭は洋楽器を楽しむもの多し。

蘭印中でも、アンボンは最も古くから欧州文化の影響を受けており、混血児も可成り見られ、原住民としての伝統を失いつゝあり、同僚である他の原住民とは、よく融和せざるうらみあり。女尊とまでは行かぬが、女の権利、女の進出多し、これは教育のためならん。

南方民族は保守的で怠惰であるけれども、アンボン人は知識階級は積極的にして、自己の利害が一致すれば、時の政府、上役に忠節を尽す気質を有す。

住宅は欧州式熱帯向きの構造にして、瓦屋根で天井高く、コンクリート造りなり。畳の上で生活した日本人は初めの内は非常に固い感じであつたが、馴れぬに従い、これが南方では最適の構造ならん。文化住宅の建方は本屋に居室、寝室、客間、食堂あり、後の方に鍵形に使用人の部屋が並び炊事場、浴室、便所あり、水洗式なるは日本の及ばざる処なり。(そして彼等は決して糞尿は肥料に用いず)そして中庭を有しそれに草花を植えるのを嗜みとし、小鳥(オーム、セキレイ等毛色の美しい鳥多し)犬は割合に多く、稀に猫も飼う。家禽は原住民で飼育するもの多い。

大概電気冷蔵庫あり、これは日本式に考えれば贅沢品なるも南洋では必需家具なるべし、扇風機も客室には設備しあり、まず快適なる生活なり。されど原住民一般の生活は最低にして雲泥の差があり、これは彼等の社会組織が斯くなれるものにして、これに対し、原住民はさほど不審に思わず、むしろ当り前のことと考えるらしく、これが数百年の殖民政策のせいであろう。

支那人の家屋は、本屋倉庫等雑然として入口狭く奥行長いのが特徴で、これに嚴重な堀を繞らし、頑丈な錠前を施す。これは長年に亘る彼等の独立自衛、自己保存の本能から出たものならん。

10. 宗教

この地方は殖民史に徴するも、初めにキリスト教の布教を受け、大方信徒なり。市内には立派な教会聳え、例日には教会に行くを楽しみとせり。いかなる僻村に至るも教会だけは立派で、民家とは比較にならぬ。又小数乍ら爪哇人は回教徒多し。

11. パプア人

所謂ニューギニアの土民にして、蘭領には僅か 40 万足らず、山パプアと海パプアの 2 種に分けらる。海パプアは文化やゝ進み、浜海に居住し、漁獲並びに若干の耕作を知る。山パプアに至りては食人種と称せらるゝも、それほど獰猛ならず、物々交換で貨幣を知らず、樹上に狩猟生活を営み、裸体にして僅かに局部に木の皮を纏うのみ、彼等の欲する物は、マツチ、塩、衣類等を喜び、海パプアは近年日本人の苦力(農場、荷役、雑役)に出て、多少貨幣経済を知るようになった。斯の如く世界最低の民族が、今次戦争で、その居所を脅かされ、どんなに文明に吃驚せることか想像に余りあり。

ニューギニアは今尚神秘に閉ざされたる自然境にして、人智の及ばざる僻地で、過去数回に亘り

探検を試みたるものあれどその多くは、海岸を巨る 4〜50 キロに出でざるべく、濠領の近くにある最高の山脈 5,000 m に及び四時雪を戴き、巍然として、赤道直下に聳え立つ。又幾多の大河は北に南に注ぎ、バンダ海に面しては、一面の低湿地となり、一大ジャングルを覆ねる。

本島唯一のマンベラモ河は千古の謎を秘めて、永遠の流れを続けており、凡そ文明社会とは絶縁の無人境をなす。

西南側にある「ボヴェン」「チゲール」は昔から有名な流刑地にして、スカルノ氏その他民族運動の指導者はこの地に流された。

12. セラム島旅行記

民政部開設以来諸務一段落付きたる頃を見計らい、セラム島視察を試みたり。視察団は鈴木文教課長、前沢氏、それに三警の兵隊凡そ 10 人足らずの小人数なり。モーターボートを以てトレホを出発ハルコ島を通り、先ずサパルアに上陸す。石田氏等が出向い、管内事情を聞く。サパルアは以前に大沢さんと来たことあり、中々良い所なり。ここから 8 軒許り離れたところに、稍大きな部落あり、村長邸にて茶果のもてなすを受ける。又元メラウケ駐在の官吏あり、非常に交際好きな男にて、以後時々アンボンに来たり話し合う。彼の家にはパプア人形多数槍その他沢山あり、大沢さん土産に貰って大事に保管せるも、アンボン引越の時槍は忘れたり。

この地区は基督教徒で教会は盛況なり。

産業は Pala, Tjenke を植えつけ、チンキは産額稍大なり。サパルアの農業指導員の案内にて、畑作を見る。陸稲、玉蜀黍を栽培し、中位の成績なり。村の近くに野菜畑、パインナプル栽培もあるも、土人は農業に熱心ならず。土質も又珊瑚礁にして良好ならず、食事は石田邸にて頂き、別棟に休む。

学校、役所、裁判所等あり、ここのコントレーラも中々多忙の由、この島の産物は、やはり丁香にして、島内至るところに栽培し、よく手入の行き届いた林地あり。農業は盛ならず、大体アンボンから再輸する。石田氏はこの島のコントレーラとして 4 年間統治に当たり、よく治績を上げ、そのため終戦時も原住民の報告により聯合軍の受けもよく、早く内地に帰るを得たり。即ち心すべきは善政なり。

サパルアはこの地方では文化度の進んだ町なり。コントレーラ事務所初め、学校、裁判所、警察、刑務所等の官庁あり、役所前の広場には羊群むらがり、大きい並木などあり、景色良き所なり。栈橋は約 40 米あり、4〜50 屯のプラウの港なり。

吾々はそれからピルーに向う。ピルー湾を走ること一日にして、夕方ピルー町に達す。土地の役人の出向をうけ上陸す。当日はパツサングラハンに泊り、ランプの下で食事をし語り合う。この町はセラム島でも誠に小綺麗なところで、人情も又こまかなり。邦人の駐在 1 人もなく、全部原住民で統治をなす。

翌日は町内を見学支那人の店で、合着の服地を買いたるも、この生地は終戦になつてから売払つた。ドクトル Sonda という人あり、奥さん、小供達日本人に親しみ、この家族と広場で写真を撮とり、寺町君も入る。市外にゴム林あり珍しく感ずる。

どこの土地でも子供達は純真で、日本人になつて可愛らしい。名残惜しいピルーに別れを告げて、吾々は再びピルー湾を南下し西岸寄りに、この辺の農業適地を調査しながら進む。一日許り行つた所で船は珊瑚礁に乗り上げ、引き潮のため、こゝで半日休む。満潮を利用して再び航海、吾々はまず Lokki 部落に上陸し、村長等の出向を受け、小憩の後農園を視察する。200 町歩位あろうか、椰子を主とし、未だ本格的収穫期に至らず、番人居り家畜を飼う。この沿岸一帯は地味もよく原住民も小規模の畑作をやり、キャサバ野菜等を作る。しかし農法は頗る幼稚なり。この附近のいろいろな話を聞き、それから又船で海岸伝いに南下する。半島の突端の部落に上陸し、4 秆位歩き教会のある部落に達する。こゝで又見物する。物産は木材を主とし、アンボンへ供給のため鉄木を切り出して、船でアンボンに運ぶ、以前はこの土地に相当の木材があつたが今では伐り尽し、6 秆位奥から運搬しているとの事、重量材ですから容易でないだろう。この附近は平地なく、農業は盛んならず。一般に海岸部落は魚は多少とる。前沢さんと写真をとる。吾々の官服は派出で珍しいので、よく原住民が集まり、吾々について廻るのには閉口した。それから海路アマハイに向う。アマハイ湾は波静かにしてよき航海日和なり。海からみるアマハイは矢張り綺麗な小港なり。コントレーラ事務所には大きな木あり、私邸も立派なり。市内を見学するが、ここはピルーより人気悪し。この北 10 秆のところ到大面積の農園あり。アンボン在住中この農園の管理人が時々来て物資を持つて行つたことあり、後にこの農園は特別会計にして経営し、吾々が引揚げてからは軍事基地として重要になつた。

斯くして旅行の目的も一応終つたので帰路についた。ワハイ及びゲツセルは距離も遠く後日に廻すことにしたが、あとで考える残念でした。トレホに上陸自動車でアンボンの吾が家に帰つた時は、ほんとうに、やれやれとした気持であつた。何処にいても旅行は又楽しい思出であるが、家に帰つた気持は又格別なり。

10 月～12 月のいろいろな事柄

10 月末マカツサルから二宮書記赴任、小坂氏と共に仕事をする。

二宮氏は初め荷役から物資の方をやり、農民道場をやるようになって、支那人の家を探し物資を見つけるには適任なり。小坂氏は例によつて研究家でモルツケンの貿易統計等作り、農園経営の方もカテカテ、ロツキー、アマハイもよくやる。

酒好きにて夕方になれば必ず外出友人を誘い出す人なり。未だ独身なれど頭が薄くなり、塩見さんの所によく出入りする。この頃は戦局も漸く、中だるみであつたが、敵がガダルカナルに上陸するに及び時々敵機が来るようになった。Lokki 飛行場には零戦がおり 3～6 機いた。日本人も商社その他多くなる一方、パラオ方面から海軍で料理屋若竹など連れて来て、独占し、いろいろ問題を起す。一体この如きは不要なるべく、一利なし。このため食糧の配給には苦労した。

12 月頃から爆撃もはげしくなり、初めは船を目当であつたが、3 機編隊から 5 機編隊と次第に増強され、日本軍はだんだん守勢に迫こまる。この頃敵艦来るとのデマあり、皆戦斗準備する。しかしこれは見張員の間違いとわかりホツとする

しかしこの時はマカツサルから南西方面艦隊が出動したので 100 万円の損害事件と称せられた。恐ら

く心気楼ならんと当時は云った。

当時の仕事は食糧事務，配給にて，相当多忙なり。倉庫もいつの間にか，空っぽになり，一時は一週間しかなかったので，第一虎丸を待つこと久しく，責任上ハラハラ連日電報にて民政府に交渉するが，政務部長には，よくしかられたものなり。

12月8日大詔記念日には，ビクトリヤ兵舎で盛大に行事をやる。市内行進など大々的。

又アンボン東北隅に日本人墓地あり，遠い昔歌和山その他から南進せる日本人が或は虐殺に逢い，又異郷にて病死せるありその数40柱以上，これらの墓は皆清掃し，ビクトリヤ側に立派な忠霊塔を建てたり。12月8日には慰霊祭も行い，地下の霊もさぞかし浮び上ることならん。

昭和18年1月1日

元日お正月と云うに，熱帯下のこととて乾期の盛りである。それでも松（チエマラと云つて唐松に似た木）竹を各戸で建て，お正月をやる。料理は私が作り，配給の餅で雑煮を作る。南洋での餅は余り感心せず，酒，ビール，ウイスキーは未だ豊富にあり，胃腸が弱つているので余り食欲なし，年越しの日は大沢さんと2人で除夜の鐘を聞いて休む。

元旦は8時から拝賀式あり，そのあと炎天下で長官の訓示あり，終つて市内行進，一日お祭騒ぎで暮す。午後から野球大会OB組も元気でやる。大和撫子は応援に黄色い声を張り上げ中々賑かなり。夜は各自が思い思いに酔い且つ語り合う。遙か故郷を忍び今頃は妻子がどうしているかと中々寝かれず。アンボンでのこのお正月風景は長く脳裏に残ることだろう。

町の中も覚え，リムの兄弟，マノンブテイ親子，色の黒いアンボン人の姉妹南興喫茶店，小坂，村山その他の友人など，これらは凡てアンボンの風物と共に忘れ難い思い出となった。

殊にグステー大人とその子供達，今頃は皆成人して，どうして暮しているかいつも脳裏に焼きついて離れない。

又アンボンには吾々よりも早くいた人で，武田久勝という人あり，郷里はたしか十二所あたりの人で，大中々退後直ちに南洋に渡り，蘭印生活25年とのことなり。武田邸へも時々行き撞球をやり，又食事を共にする。話のうまい人で原住民に信頼あり，警察を握っていたし，あとで民政部の囑託として努力した。

1月1日以降

爆撃はひどくなり，アルー群島，ドボ盲爆され，松本書記は爆死，関氏は大負傷して，アンボン病院に送られる。松本氏の告別式は民政部葬をもつて盛大に行わる。関氏には代る代る看病に行きしが，夜痛み出すので，肩に大穴があき化膿していた。

当時ニューギニア，テルナテ，サパルア，ゲセル等の駐在員の本部往来繁しく，岩瀬事務官はタニンバル諸島に行つて未だ帰らず，ニューギニア民政部，アンボン州，民政部機構改革頻々あり，ために人事異動繁し。

岡本産業局長アンボン視察さる。海軍，陸軍，民政部，商社の関係連絡十分ならず，民政部は各省からの寄合世帯で対外的に力なし。軍は民政に口出し，横車を押す状態で誠に情けない。この頃になると機構改革と移転の話にて持ち切りにして，仕事手につかず，2月初め内地から越野¹³長官がアンボン州

知事として赴任さる。

2月6日に移転確定的となり、引越準備に没頭す。

石橋部長、大沢課長飛行機で先発 Bali 島に向う。

2月8日

約半才間住み馴れた Ambon に別れを告げ、原住民の盛大な見送りをうけ、岸壁に横付けの乙巡洋艦鬼怒に乗艦す。その日はそのまゝ停泊、農林関係で居残りは梶原（出張中）小坂二宮、岸、宍倉、杉村、米沢、田中、田中（富）塩見、大橋、稲川その他各島駐在の人々石田、小口、高杉、池、向井の諸氏でこの人達はあとで物議の種となった。

女子は艦内では士官室に気取り待遇よし、男子は廊下や空地に寝て、まるで汗だらけなり。

当時は海上も相当危険にして、特に原住民の目の前で移動でスパイ活動もあり、結局軍艦で民政部移転ということならん。

2月9日

早朝岸壁を離る。美しい景色に包まれた、アンボン湾を次第に離れるにつれ、緑のアンボン、思い出のアンボンも二度と再び訪れることなからんと思ひ非常に感傷的になる。居残った人々の健康と多幸を祝して静かにハンカチを振って別れる。

港外に敵潜水艦出沒するとの事、機雷を2〜3発投下して逃げる。遙か後方で物騒い爆発音あり、艦内は振動する。

本艦は初め21節最高26節に移る。26節にてジグザグ行進なるが、カーブする時は艦が眞二つに折れるような、きしみて生心地しない。正午頃から姉妹艦久磨と演習しながら眞一文字に南西に走る。Banda 海は深くして、緑の海なり。日没頃から嚴重なる警戒、艦は漆黒の海を、白波を立て、進むが、艦の動揺激し、眞夜中頃敵艦と思ひきものを発見、発砲寸前になり、それはわが方の輸送船（民政部の荷物を積んだ船）で齊藤秋葉の諸氏乗っており、間一髪のところであつた。（無電ができないと大事件になるものだ）

眞夜中 Banda 海の孤島〇〇を通過し、一路フロレス北岸を目ざして進む。久磨とは常に間隔を保ちながら進む。

2月10日

夜明に相手艦と追いつ、追われつ演習をする。正午頃フロレスの北岸に達したれども、陸地は見えず、それから進路を眞西にとる。海又海の単調さに飽きたが、この日はフロレス西岸に暮れる。

2月11日

払暁、海岸が見えはじめた、愈々憧れの Bali 島を遠望する。やがて本艦は遠い沖合に停泊する。大事な民政部要員を運んだ数日間、起居を共にした本艦ともお別れだ、艦長以下軍人式のお別れをしてから、船に乗り移る。Benoa 岸壁には支部の職員出向い直ちに自動車で Denpasar に出、小憩の後キンタマニー峠越えて Singaradja に向う。Bangli を通り、キンタマニーの火口壁を通る時綺麗な景色を見る。それから迂回の甚だしい道を通り夕方シンガラジャ市に到着、先着の人達、支那の人達の案内で各自宿舎に入る。大沢さんはすでに家を見付けてあり、荷物を持って落付く。この家は3年以上も住んだ懐し

い思い出の家となつた。前からいたこの家の主中村君とも逢う。それから同じ課の三橋，加賀，赤木の諸氏にも逢う。事情を知った先発組みには頭が上らない。Bali 島の第一印象は，まず風光明媚なること，戦火の影響なく静かなる街であることであつた。われわれは斯くして，よい所に又よい時期に引越したものだと思ふ。初夜の夢は温い寝台に心ゆく迄横になり，何んの不足感もない。これから先多幸ならんことを念じて，おそい眠りにつく。

思えば今日は紀元節の佳節なり。これは海軍の配慮に感謝す。

2月12日以降

無事安着につれ，遙かにアンボンの生活と残つた同僚を思い出す。又グステ家の子供達は今頃どうしているかを思う時に，どうしても故郷の妻子が臉に浮び望郷の念にかられる。

この日は張り切つて朝から荷物の整理，家庭のこと，使用人のこと等大沢さんの指示によつて行ふ。

2月15日から民政部開庁というので，先ず役所に初登庁，邦人小数にて原住民多し，支部長は矢島事務官，経済方面は三橋技師であつた。まず部屋の壁抜き，模様替を行ふ。

又宿舎に帰つては，各家に落付き，思い思いの話と楽しい食事

物資の豊富なバリ島，暖いコーヒー，美味しい果物，魚，新蘇なやさい。牛豚何んでもある。内地の淋し食卓を思う時，誠に恵まれすぎている。日本酒，ウイスキー，ビール，ジン，地酒等沢山なり。戦時中これ程静かな，そして祐福な暮らしがあるだろうか。

食費も初めの頃は極めて安く，1ヶ月50円もあれば十分です。私の宿舎は大沢さんを上室に，その横中央食堂，食堂の後ろに私，裏の部屋に西村，入口左に中村の諸氏，2〜3日するとスラバヤ経由で大荷物着き，部屋を整理する。大沢さんも今度は落ちついた生活。使用人は

ジョングス マデ，ゲルゲル夫婦に男の子

コツキー 爪哇人のおばあさん

バブ マデ，スウイ

庭師 眞面目な無口な老人

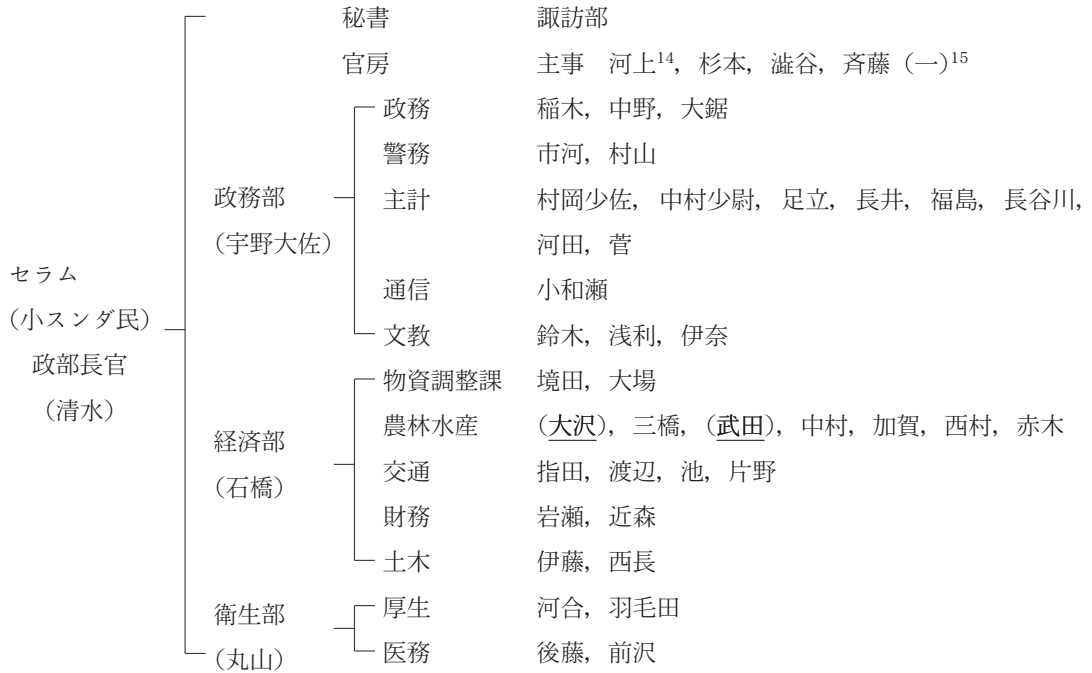
こゝの料理人は長年白人に使えたことあり上手なり。毎食皿は4〜5品あり，主に肉の皿と野菜と混ぜたもの，或いは油いため多し。最初は肉が美味しかったが，次第に野菜を好むようになる。晩は晩酌に魚の刺身で大抵10時迄話し乍ら食べるのが唯一の楽しみ。殊に大沢さんは非常に楽しそう。

中村氏は話し合わぬせいか，よく三橋邸に行く。

女史職員は政務部長直轄で，上の方3軒に一室に2人ずつ，中々問題多し。

Bali の男達は鶏闘，女達は働き上手，亭主天国なり。上半身，オツパイを丸出し，腰にサロン，頭に籠を乗せて，直立の姿勢で歩くため背骨の格幅よい。誠に夢の島 Bali のイメージにふさわし。半可通なマレイ語で土地の事情を使用人と話しす。支部の人達は小人数の故，元は一軒の家を持つて，相当楽しく生活したらしく，本部が来るに及んで，次第に邦人多くなる。

2月15日事務引継ぎ，当初の機構は下記の如し。



3月以降になると、内地から民政部要員続々来たり、警察、学校、郵政、放送関係並びに地方県州の要員多数、民政部の外局、地方出先機関次第に整備さる。

外局、学校等主なるもの（Bali 島内）次の如し。

警察訓練所…向井

シンガラジャ中学校、シンガラジャ師範学校、デンパツサル教員養成所

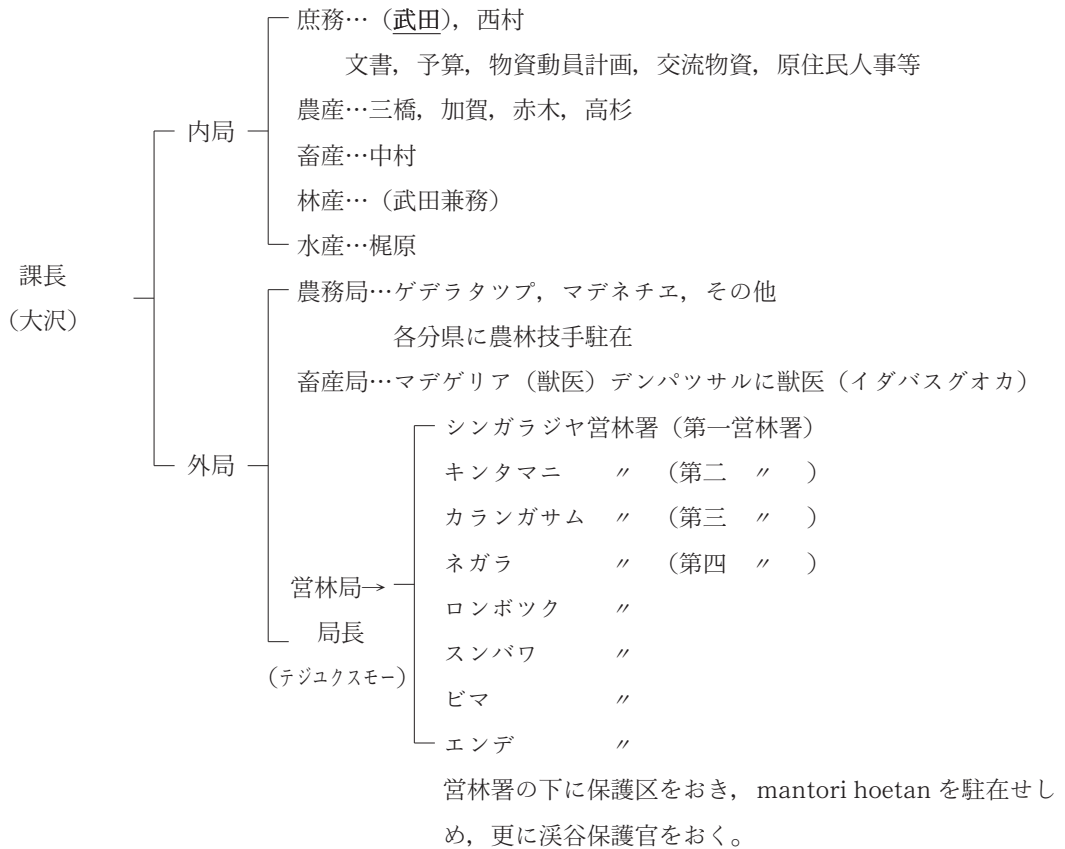
警察署は各首長所在地…8ヶ処

シンガラジャ農業講習所、ギャニヤル農学校（児玉）農民実務学校

シンガラジャ病院 シンガラジャ放送局、海員練習所

郵便局（シンガラジャ、デンパツサル）、裁判所、刑務所

農林水産課の機構



農事試験場 …(藤岡, 安木)

セセタン …台湾種水稻, 綿花, ヒマ蚕, 原種圃の設定
麻類, 野菜

マタラム …同上

ブドグル …(高杉, 橋本) 採種場

テジャクラ …柑橘類試験地

グロカ …試験地

サワン …サイザル麻試験地

シンガラジャ…水稻栽培試験地

シンガラジャ農業講習所…(森北, 酒井)

1年2回5回生徒を出す

ギャニヤル農学校(児玉)

18年4月1日小スンダ民政部と改称せられ, 県, 分県制度実施せらる。地方行政機構下の如し。

自治領における行政機構は, Bali 島では, 元各県独立の行政を行いたるも, 和蘭政府の監督下に首長

聯盟をおき、交通、土木、医務、経済、文教等の各県共通行政と予算を管理し、その下に各自治領8州をおき、各首長が責任に当たる。即ち首長の下に首長事務所をおき、地方職員を配す。職員の人件費も複雑にして

政府職員

首長聯盟から俸給が出るもの

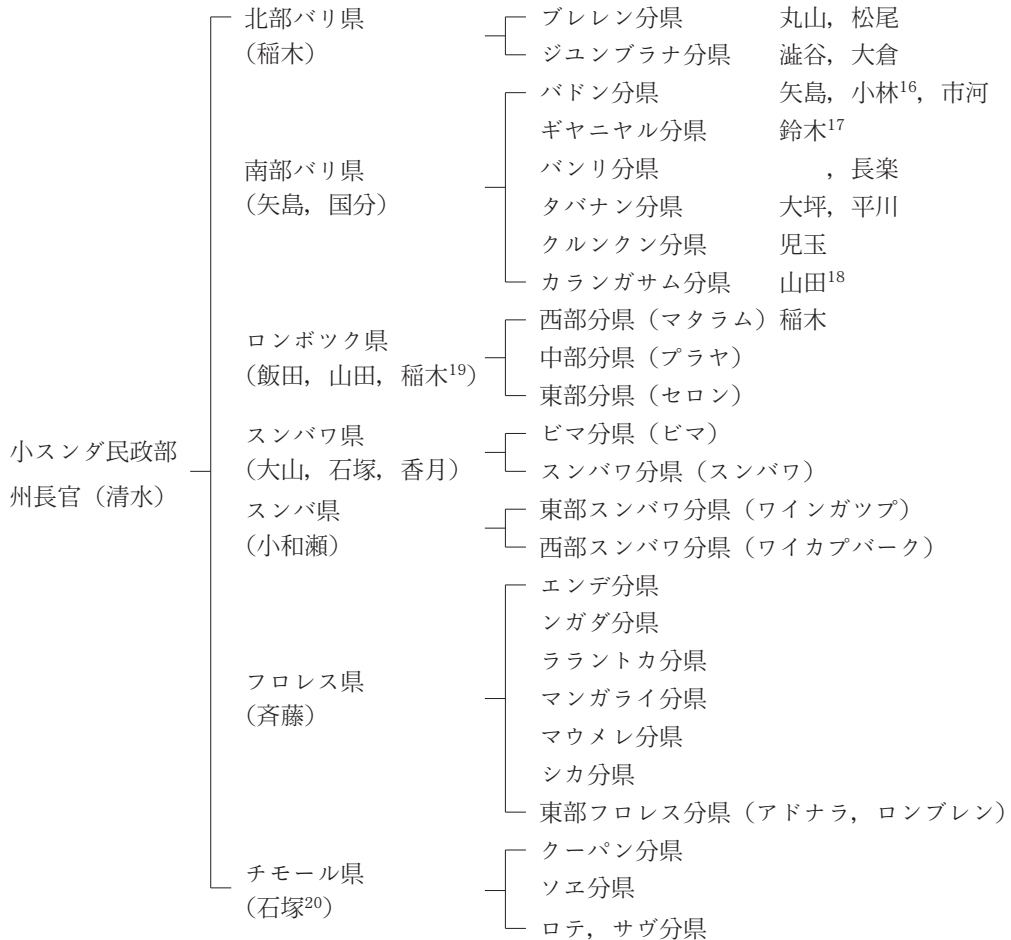
自治領の職員

政府職員にして俸給が自治領から出るもの

因に首長聯盟の予算は、戦前は20数万値であつた。

和蘭占領当初は、直轄領にせるが、Baliの習慣は首長政治の色彩強く、結局元に復し、首長政治による間接統治を認ざるを得なかつた。州知事(コントレール)は形式は大目付として駐在せしが、首長政治に陰に陽に干渉し、多年に亘り操縦し来たり、年俸制を設け、實質的に首長の離間を防ぎ、且つ首長聯盟の強大化を妨げ、又内面において首長相互間の離間を策したり。

【バリ島地図省略】



首長の下に郡長あり，Bali 全島に 43 郡あり。

任免権は首長にあり，従つて多くの場合首長の閥をもつて構成せられ，地方では郡長の権限強大なり。民事，結婚，戸籍を扱う。郡長の下に村長あり，村長宅に書記 1～2 名おき事務を行う。村長の下に区長あり 30～40 戸を単位として，村長の下役を勤める。即ち自治領における行政形態は

首長事務所 → 郡事務所 → 村役場 → 区長 → 人民
(首長) (郡長) (村長)

Keradjaan District Kepala-Kanpoen Kalian-Desa

このほかに，Bali 特有の社会上の組織として，宗教上の村 (Desa) あり

これは必ずしも，行政村の区域と一致せず。

又農業上の地域として Soebak の単位あるも，これについては後述

因に和蘭時代の一般行政機構は

Bali en Lombok 州 Timor 州に分れる

理事州 → 首長 → 郡長 → 村長 → 区長
Resident ↓ コントレール Pengawa
副理事官

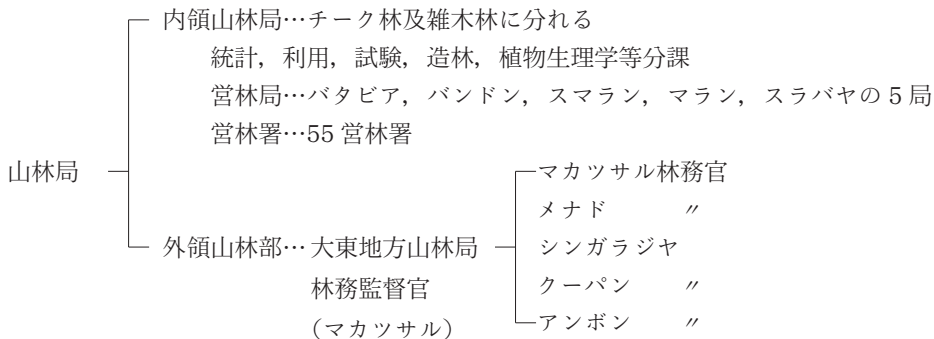
産業政策上の機構としては，(外領)

大東地方農務監督官 → 農務官 → 技師 → 技手
(マカツサル) (シンガラジャ) (インシニョール) (オプチヒテル)

畜畜も大体同様の機構で獣医官を配属せり。

林政は爪哇においては，和蘭本国の独逸流の林政で，極めて発達したるも，外領にては監督官位のもので，見るべきものなく，これから保安林，渓谷林などの調査，発展の段階であつた。

ここで蘭印時代の山林行政について，ふれてみると，



林業試験場…ボゴール

植 物 園…ボゴール

林 科 学 校 — 山林専門学校…ボゴール
— 山林学校…スカブミ，マラン
— 林科大学…和蘭本国

而して、林務官の下に営林局あり、シンガラジャ林務官は、シンガラジャ、キンタマニ、ネガラ、カラガサム、ロンボツクの5営林署、クーパン林務官はスンバワ、ビマ、スンバ、エンデ、クーパン5営林署をおき、モルツケン地方は未だ確たる林政に至らず、単に林務官を初めて駐在せしめし程度であった。

産業行政の長と州知事の関係は、各独立した権限を持ち、知事は各産業局の長に命令権はない。但し地元産業に関する事項は、協議の形式をとれり。コントロールと営林署長についても同様なり。

指揮系統は、林務官→山林技手→マントリー→マンドル

Bali 島地誌

面積は愛媛県位、ヌサペニダ島を併せて4,800 Km² 人口130万、密度280人、クルンクン地方は350人を起ゆる稠密なり。地形は中央北岸寄りに、東西に山脈あり、地質は第3紀層にして、活火山多し。北岸は平野少く、南岸は山脈の裾野を形成し、大平野展開せらる。火山灰地層なるも肥沃で、谷は深く、浸蝕され、若き地層を成すも、崩壊割合に少し。

山岳はAgung山3,300mを初めBatoer 2,700m Abang 2152m等の活火山あり。

交通は至るところ道路あり、幹線は舗装しあり、快適なドライブウェイをなす。いかなる村中にも自動車で旅行可能なり、北岸から南に越える道路としては

キンタマニ經由デンパツサル	118 km
ブドグル經由（中仙道）デンパツサル	78 km
ブルカン經由 ネガラ	90 "
デンパツサル→ギリマノ	130 "
シンガラジャ→ギリマノ	90 "

平地は時速60~80km 中仙道で2時間足らずでデンパツサルに達する。

キンタマニホテルは海拔1,550mで気温22℃、ブドグル1,100m 気温24℃で快適、キンタマニは霧深く、日照少し、年中薪を焚き暖をとる。毛布2枚を必要とす。土木も朝夕は厚着をし焚火を喜ぶ。

G. Agungは海拔3,300mで本島では、ひときわ、ぬきん出て秀麗なコニーデ式の活火山なり。Bali富士の名あり遠く海上より望見し得らる。

次に急峻なAbangとその西のBatoerに挟まれて、Batoer湖あり、四時青い水を湛えて、神秘なところ極りなし。全くの火山湖にして、20数年前に大噴火して、東一帯に溶岩流出し、ために植物相焼失せり。G. Abangの屹立、Batoerの雄大、それに円形の美しい外輪山、その中に永遠の神秘を湛えて、女神の如く静かに横わるBatoer湖、その景勝何物にも勝る。しかるが故に、この地に永住の居を定め余生を送っている、独逸人夫妻の画家あり、この地を見物する者の一度はこの画家を訪れ面接するなり。

Agoeng山の植生は殆んどなく、僅かに灌木と草生のみ、山麓にはロンタル椰子茂り砂漠、サバンナにして広漠なる荒地にして産物は塩と砂糖のみなり。

Bali島には大河なく、川は皆幼年期の溪谷にして侵蝕甚だしくみられるも、谷には竹木を植え、護岸保護工事をなす。しかして、川のあるところ、水のあるところ必ず水田あり、美しき幾何学的、彫刻的に階段状に水田が発達し緩かなスロープをなして連る風景は、旅人はいくら眺めても飽くことなし。

この水田と水牛、Bali 牛 椰子の葉かげに見える水田と農夫、誠に自然と融け合い混然一体となつた Bali の風物は全く絵画的な景勝である。

Bali 島は水田文化によつて発展した。

灌漑された水田を東印度では Sawah と称し（乾田はラダン）満々と水を湛えた水田で、女は田植し、男は水牛を追う風景はアジア的である。海拔 1,000 m 以上の高所までモザイクの如き整然たる階段式の水田を美しく展開させている。東印の米作の歴史は極めて古く、ために灌漑水路の建設は、これに付随して悠久の昔から特有の技術を発展せしめた。ヒンズー人のガンジス流域による経験から、モンスーンの豊かな水を利用する灌漑方法を伝い米作を発展せしめた。Bali 島民は、その起源が東ジャワのヒンズー教国マジャパイト領から最後の避難地として移動したもので、

即ち小量の雨水と雖も、一旦はこれを水田に注いで利用して、後に谷川に流す出される。

東印度会社及び英国の支配時代には欧人はこの灌漑技術を何等注意をはらわなかつた。しかし乍ら強制栽培が実施されるに及んで、甘蔗と藍のために和蘭人は相当の資本と技術を水路網に注いだ。

Bali の社会組織を理解する上に基礎となるのは Desa である。この村落共同体と水利権を管轄する Soebak の 2 つが社会構成の単位である。Soebak は Bali 社会の基本的慣習法でスダナゴン→スバの権限は何人も犯すことが出来ない。

行政単位としてデサと Soebak の区域は一致しないが、この両者が一体となつて村落社会を規制している。

和蘭時代理事官はデサ（村長）を通じて統治し、和蘭に取つては、デサは平和の守護神であつた。

高い所にある階段状の水田にどうして灌漑出来るか、古代 Bali 人は恐らく原始的な土木技術で、トンネル、水路を整備し Soebak を作つた。デンパツサル近くにあるプラウパンの 5,000 m の隧道は、1,000 年以上の昔に作られたもので、ダムの水は数千町歩のデンパツサル水田をうるおす。近代土木の技術をもつてしても一つの謎である。

Soebak の出役は村落共同体の相互扶助で、若し病気の人があれば村人の証明によつて出役を免除されるが、一度規則を犯すと村からボイコットされる。プラウパンのダム留めの木材は、椰子木であるが、大体 3 年の寿命しかなく、又掛け変える。大東亜戦争の時和蘭が逃げるに際し、ダムの爆破を Bali 人に命じたが、Bali 人は自己の生命線を絶つことはしなかつたという。

稲刈りは共同作業である。日本のような根本刈りではなく、稲穂だけをアネ、アネで上手に刈取り、根元を束ねて竹竿でかつぎ、粃(Padi)を穀倉に貯蔵する。飯米を作るのは女の仕事であり、稲穂から粃をとり、脱穀する。もちつき兔のように杵をもつて、つくのである。

Bali の社会制度として有名なものに、土地制度がある。

これは水田文化の必要上生まれたものと思われるが、土地の私有を証明するものに「ロンタル」を用いたことである。

ロンタルはロンタル椰子の葉を短冊形に切り、小刀で字をきざみ、それを煙でいぶし、端の方に穴を明け、紐で綴つて保存するのである。ロンタルに記載する事項は、所在地、地目、氏名、所属 Soebak、面積を記入し、裏面には税金（地租）を記し、毎年その額をかく。つまり、日本の地券（権利書）に相

当するものである。

紙のない古代に Bali 文字（ネガラ文字）と灌漑技術、Soebak の組織を創造した Bali 人の知恵は、けだし驚くべきものである。

Bali の宗教

ジャワが 9 割が回教であるに反して、Bali は蘭印では誰一の、ヒンズー教である。仏教と波羅門教との影響を受ける。即ちジャワを追われた、ヒンズー教徒が安住の地として Bali 島を定め、原住民族をその勤勉性をもつて追放せり。千数百年前に水田文化を携えて、この島に渡来した、Bali の宗教は一口に云えば、偶像崇拜にして、あるゆる事物、現象は皆神なり。一本一草と云えども、皆神宿り、神々の数は 330 と称せらる。全島至るところに大小無数の寺院を建て Poela, Bali の壮観をなす。Besaki に最大の寺院あり Bali の総本山なり。カラングサム水宮の壮観華麗さ Sange の猿寺は有名にして、バートル湖山麓に全 Bali 首長のお寺、その外首長所在地には沢山の寺あり。宗教を司る職を Pedanda（僧侶）で、その下に寺守りとして Pemankoe ある。Bali の 4 姓階級のうちで僧侶は最高の階級で、絶大の権限を持つ。又稀に女僧侶あり、終身世襲制なり。現在でも束髪僧衣を纏い、上層階級の Bali 語を用う。家族制度、家の制度、冠婚葬祭すべて宗教上の慣習による。

Bali 人の死は火葬によるが、その灰は大海に帰一する。しかし、キンタマニ湖畔の村落では今尚ほ風葬の慣習あり、即ち寝棺の姿勢で、死者は白布を覆り、風葬せらる。独身者と既婚者は別々の場所に半埋葬せられる。不思議なことに、この墓地は死臭を発しなかつたし、又鳥害も見られず、死者は半木乃伊の形で保存されていた。この原因は科学的な謎であるが、おそらく湖の気象、風、気温の関係で空気が清浄で微生物の繁殖に影響するものと思われる。

その他の人種として小数のジャワ人、ブギス人、マカツサル人等は回教徒、華僑は大した宗教なし。

Bali 人の文化

Bali 島東部クルンクン、カラングサムの中間山地帯に先住民族が住む、テガナン部落あり。今でも城壁を囲し、人相は丸顔で女は Bali 人より品位あり。同族結婚の因ならん。僅か数百を数えるに過ぎず、女は家事、衣類織り、今もつて部落共産主義で原始的、農耕は Bali 人より劣る。

Bali 文化は恐らく、千数百年のものならん。和蘭がその制圧に最も手を焼いたのは Bali 人で、体がジャワ人より頑丈で智能高く、殊に死を恐れぬ慍々な気性は、和蘭が制服史上最大の血を流したところであつた。

今日の見事な水耕文化を創り上げた Bali 人は、古代からその智能が高く、デンパツサル博物館には古代の織物、クリス、能面、駭、貨幣等あり、又 Bali 語の一世代前のネガラ文字あ、すでに数百年前文字文明が起つた。

又バートル湖の麓に一寺あり、大樹の下、活火山の影響を少しもうけず、今でも建築当時のまゝ、恐らく千年以上を経過せしものならん。この寺に Bali 最古の本尊を祭るといふも審ならず。いずれにしても、初めに渡来せし、Bali 先代民族の建築技術は驚くべき高度のものであつたと思われる。

近世は世界の観光地として、その声価が高まり、Bali 島は、世界の夜明け、神々の島、夢の島と宣伝されるに至つた。

広いインドネシアの中では、ヒンズー、一色に塗りつぶされた島で日本人には最も親しみ易い又居心持よいところでもある。

なぜならば、この島の人々110万人のどの顔をみても、私共の両親が祖先か、親せきか、或は友人の中にその面影を思い出すことができる。

又一年中どこかで行われている、田の神に捧げるお祭りや葬式法事のしきたり、の中にも、供物に乗せる椰子の葉で編んだ皿門松に似た竹と椰子の飾りにも何か共通なものを発見する。又この島の名物はパツサルにおける賑かさである。毎朝農村の女達は頭巾の上に、竹籠を載せて、パツサルに集る。露店には、果物、野菜、豆類、食べ物等が並べられ、川魚、干物など種々雑多で、その中で椰子の葉に米飯などをのせ、手で食べている情景はいかにも、のどかで平和である。

又Bali人は実に先祖の供養がよく行われる。親せきは、大体姓で区別するが(例えばgede, イダバグス, マデ等)旧家では何十人も集まる。Baliでは420日の供養が必ず行われる。従って同族社会とも云える。しかし現代の若い世代は、ふだんは親せきが誰か、わからず、法事集ったメンバーを見て初めて、親類を知るといふ。

Baliの社会組織は横には村落共同体、(共同作業をゴトン、ロヨンと云う。)縦には同族社会の結合という昔ながらの型体が、誠に平和で純朴な姿で残っていることである。

蘭印の殖民史は数百年に亘る略奪史といえるが、殊に土民にとって、顕著な影響をもたらしたものは、英人スタンフォード、ラッフルズ総督のあとに來た、ファン、デン、ボツシュの政策であつた。

即ち彼の強制栽培法により、甘蔗、コーヒー、藍の栽培は35年間に和蘭本国に送金した金は8億ギルダーに達した。これによつて、本国は更生し、祐福な生活が出来たが、これに反し土木農業は決定的圧迫をうけた。そして土人社会の破滅停滞となつた。強制栽培により土地を放棄し、苦力になるものが出るや、和蘭はこれを取り上げ強制栽培を強化した。

ボツシュは「人間は藍の農園で生れ、その中で結婚し、その中で埋められる」と云つたが、正にこれは、世紀の悲劇である。

元来ジャワ、バリ等では印度の如き峻厳な種姓制度は存在しなかつたが、土地所有上それに似た傾向はあつた。

しかし、強制栽培法によつて、土地私有は崩れ、益々弱者の立場は、みじめなものに變つた。即ち大体の階層は、

1. 米田を所有するもの
2. 乾田と住宅地を有するもの
3. 住宅地を有するも土地を有せざるもの
4. 住宅も土地も有せず借りて生活するもの

の4階級があり、それに社会的に僧侶の階級とRadjaとその一族等上層階級が土地所有し、大多数の農民は小面積の土地を有するか、或は土地無しの苦力階級に變質するに至つた。

戦後、共和国に独立したが、この土地制度の改善なくしてはインドネシアの農業生産力を増すことが困難であらう。

有り余る天然の資源を抱え乍ら、政治、治安の不安定、社会制度桎梏により、数千年の文化を持ちながら、未だに行進国の域を脱し得ざるインドネシアは蓋し世紀の悲劇というべきである。

Lombok 島

本島は和蘭占領当時から、直轄領として今日に至る。

郡長の勢力強く、大方の民事裁判は週一回の巡回裁判を待ち郡長事務所で行う。

Bali 島との海峡との間に有名なウオレス線あり。

Flores 島

自治領なるも、本島は小スンダ列島の中では最も早く、西欧文化されたところなり。即ちローマ、カトリック教布教のために島内至るところに教会あり、熱心なるカトリック教徒なり。本島は「バシヤワ」に司教あり、その地位はローマ法皇に直属し、その勢力絶大なり。その下に多数の宗道士、宗道女あり、又神学校を経営し、現地人の司祭の養成、修道女の養成に努む。教会は戦時中と云えども自活したり。

戦時中敵性司教、司祭は軍のため異動されたも、その代りとして、広島、長崎の司教、山口師²¹の渡島により、原住民は涙を流して喜び、山口師はエンデの警備隊司令佐藤大佐と協力して、キリスト教を軍の弾圧から守ったことは有名にして、戦後同大佐の著書「花の孤島」は外国語に翻訳されて有名になった。又この姉妹編である、萩原司教の著「戦争と宗教」も誠に感銘する名著であつた。

誠に不思議というべき神の攝理である。

Soembawa 島

Bima と Soembawa besar に Radja あり、首長事務所をおき政治を行く。文化低位なり。

Soemba 島

小 Radja 30 余あり、住民 20 万余、乾期には一滴の雨なく、全島の草木もカラカラに乾燥、一大サバンナ状をなす。

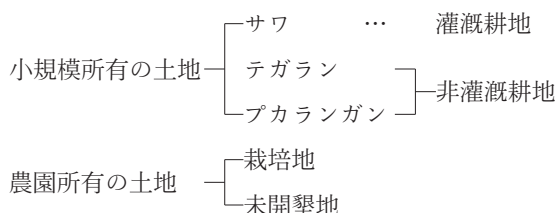
牧畜の島なり。良馬を産す。

Timor 島

和蘭の直轄領なり。

耕地の形態

ジャワと外領では若干異なる。先づジャワでは



継続的に耕作されている土地は、ジャワではフマと呼ばれ、ジャワ以外では一般にラダンと呼ばれている。

これらの型の耕地の優劣は

サワ→プカラガン→テガラ→ラダンの順序である。

ジャワ島ではサワの面積は350万ヘクタールで全島面積の26%あるが、その他の外領でサワのある島はバリ、ロンボック両島とスマトラ、カリマンタン及びスラウエシに若干あるのみ。

しかし外領の統計は確実なものなく、農業計画はむづかしい。

編註

(解説)

- (i) 当時の小スンダ民政部(とりわけ農林水産課)については、以下を参照。河野恒雄「司政官のみたバリ社会」インドネシア日本占領期史料フォーラム編『証言集日本軍占領下のインドネシア』龍溪書舎、1991年、663-715頁。
- (ii) 小スンダ地方の中心バリにおける日本占領については、倉沢愛子「絶えざる対立と動揺の現代史」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ変わらないバリ』勉誠出版、2009年に内外の関連文献の紹介と共に簡潔に整理されている。
- (iii) 河野恒雄氏発後藤 乾一宛私書簡、1999年7月26日付。

(本文) 以下の人名註は、秦郁彦編『南方軍政の機構・幹部軍政官一覧』南方軍政史研究フォーラム、1998年に依拠。

1. 市川孝一、〈内務〉警視庁麹町警察署長、17.5.23、5等級、17.6.1 セラム民政部政務部警務課長、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.4.12 警察講習所教授[271]。
2. 平野孝雄中佐。
3. 鈴木政平、〈文部〉和歌山師範教諭、17.6.19、4等級、17.6.19 セラム民政部政務部文教課長、19.2.1 小スンダ民政部部員(バリ島)、20.1.10 南方政務部付[291]。
4. 大沢融(昭12東法)、〈農林〉農林事務官、17.6.20、6等級、17.6.20 兼海軍司政官・セラム民政部経済部農林水産課長、17.12.19 専任海軍司政官、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.7.3 軍需監理官、19.10.1 南方政務部付[277]。
5. 清水重夫(大7明法)、〈内務〉、17.5.23、1等級、17.5.23 南西方面艦隊司令部付、17.5.25 南西方面艦隊セラム民政部長官(アンボン)、18.2.11 バリ島移駐、19.1.17 セレベス民政部長官、19.8.30 南方政務部付、19.10.14 依願免本官[95]。
6. 石橋豊徳(昭3九大法)、〈内務〉高知県警察部長、17.5.23、3等級、17.5.23 兼海軍司政官・南西方面艦隊司令部付、17.5.25 セラム民政部経済部長、17.12.19 専任海軍司政官、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.7.15 内務事務官[271]。
7. 大貫和一(大13秋田鉱産)、〈商工〉鉱山監督局技師、17.6.20、6等級、17.6.20 兼海軍司政官・セラム民政部経済部鉱産課長、17.12.19 専任海軍司政官、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.7.3 軍需省軍需監理官[277]。
8. 指田孝平(大15東法)、〈大正運輸〉取締役、17.6.19、3等級、17.6.19 セラム民政部経済部交通課長、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.5.27 依願免本官[287]。
9. 小田庄市(大13通史・昭6高文)、〈通信〉、17.1、17.2.16 アンボン着、17.5.25 セラム民政部通信課長、18.10.30 帰国[332]。
10. 丸山鼎一(大14新潟医専)、〈厚生〉長尾厚生会保健館長、17.6.19、4等級、17.6.19 セラム民政部衛生部長、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.4.17 戦死[307]。
11. 河合宗治、〈厚生〉厚生省防疫官、17.6.20、5等級、17.6.20 兼海軍司政官・セラム民政部衛生部医務課長兼厚生課長、17.12.19 専任海軍司政官、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.9.22 南方政務部付、20.1.17 地方技師[280]。
12. 諏訪部徳夫(昭10明政経)、〈東京市〉大政翼賛会会議課長、18.7.5、7等級、18.7.5 セラム民政部部員、19.2.1 セレベス民政部部員、19.12.30 南方政務部付、20.11.12 免官、21. 地方事務官[292]。
13. 越野菊雄(大13東経)、〈内務〉栃木県総務部長、17.12.26、2等級、17.12.26 南西方面艦隊司令部付、18.2.5 セラム民政部州知事、19.2.1 小スンダ民政部長官、23.1 復員[95]。
14. 川上鑊(大14熊本師範・昭11高文)、〈内務〉地方商工主事、17.6.19、6等級、17.6.19 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員(官房主事)、20.1.25 南方政務部付、20.2.3 和歌山県地方事務官[280]。
15. 斉藤一(昭7明法)、〈内務〉東京都書記、19.4.28、7等級、17.7.17 セラム民政部書記、19.2.1 小スンダ民政部部員、22.1.29 復員[289]。
16. 小林巳根夫(昭14東法)、〈内務〉地方事務官、18.8.9、6等級、18.8.9 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民

- 政部部員（バドン分県監理官），21.12.9 復員[286]。
17. 鈴木毅（昭7東法），〈正金銀行〉，18.7.31，6等級，18.7.31 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員（バリ島ギャニアル分県監理官），21.8.27 復員，21.9.15 免官[292]。
 18. 山田万平（大13中法），〈内務〉市川職業紹介所長，18.3.31，6等級，18.3.31 南西方面艦隊セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員（カラングサム分県監理官），21.7.30 復員[313]。
 19. 稲木進（昭8京法），〈内務〉徳島県庶務課長，18.3.8，6等級，18.3.8 セラム民政部部員，18.5 政務課長，19.1 ロンボック県監理官，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.6.21 復員，21.6.30 内務事務官[271]。
 20. 石塚昇（大8農林校），〈内務〉地方事務官，18.3.31，5等級，18.3.31 クーバン県監理官，19.2.1 第24海軍建設部クーバン支部長，19.2.21 小スンダ民政部部員，21.8.27 復員[272]。
 21. 山口愛次郎（ローマ神学校），〈司教〉，18.6 フロレス島駐在[334]。

なお本武田日記に登場しないセラム・小スンダ民政部関係者一覧は以下のとおりである（秦郁彦編，前掲書，参考）。

海軍司政長官

松田定信（大12ケンブリッジ大），〈農林〉海軍司政官，19.9.30，2等級，19.9.30 第26海軍建設部付（ハルマヘラ民政担当），20.1.10 南方政務部付，23.7.3 戦犯刑死[96]。

海軍司政官

青木誠一（大8農学校），〈内務〉地方事務官（滋賀県），18.3.31，6等級，18.3.31 セラム民政部部員，18.7.1 ビル分県監理官，19.2.1 第25海軍建設部部員，21.5.30 復員[269]。

赤木二三夫，〈内務〉地方警視，18.3.31，7等級，18.3.31 セラム民政部部員，18.4.28 戦死（鎌倉丸）[269]。

秋山徳郎（昭7東北法），〈内務〉宮城県事務官，18.7.20，7等級，18.7.20 セラム民政部部員，19.2.1 第25海軍建設部部員，21.5.29 復員[269]。

相川滋，〈通信〉海軍書記，19.1.10，7等級，17.11 セレベス民政部書記，19.5.1 南西方面海軍民政府局員（シンガラジャ郵便局長），21.9.15 通信事務官[270]。

浅利正一，〈内務〉和歌山県国民学校訓導，19.10.31，7等級，17.6 セラム民政部書記，21.8.6 復員，21.9.15 免官[270]。

家村要四（昭4鹿児島高農），〈内務〉地方事務官，18.3.31，7等級，18.3.31 セラム民政部部員，19.2.1 第26海軍建設部部員，21.6.18 復員[272]。

井藁正一，貴族院属，19.1.18，7等級，17.7.17 セラム民政部書記，19.2.1 第25海軍建設部部員，21.7.15 免官[273]。

飯尾徳三，〈大蔵〉名古屋税関監査官補，19.3.18，7等級，17.6 セレベス民政部バリ出張所書記，19.3.18 セラム民政部部員[274]。

池行雄，〈内務〉高知県属，19.8.17，7等級，18.8.6 セラム民政部書記，19.8.17 セラム民政部部員，19.12 ロンボック県警察庁長，21.6.11 復員[274]。

石田竹蔵，〈内務〉岩手県警部，19.8.19，7等級，18.8.3 セラム民政府警部，19.8.19 第26海軍建設部

員，21.5.29 復員[274]。

上田明（昭15 東法），〈内務〉宮崎県警務課長，18.3.31，6 等級，18.3.31 セラム民政部部員，18.4-18.7 興亜鍊成院生，19.2.1 小スンダ民政部部員（政務課長兼警務課長），23.1.9 復員[275]。

宇佐美栄一郎（昭10 拓大専），〈内閣〉企画院属，19.4.28，7 等級，18.7.23 南西方面海軍民政府書記，19.10.17 小スンダ民政部，22.1.30 復員[275]。

江口芳松，〈台湾〉総督府地方理事官，19.5.9，6 等級，19.5.9 小スンダ民政部部員，21.5.24 復員[276]。
岡部巖夫，軍令部嘱託，17.6.19，5 等級，17.6.19 南西方面艦隊セラム民政部部員，19.2.1 第25 海軍建設部部員，21.7.15 免官[276]。

大坪真幸（昭8 九法），〈内務〉地方事務官，18.3.31，5 等級，18.3.31 セラム民政部部員，18.4-18.7 興南鍊成院生，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.8.27 復員[277]。

大野義治，〈内務〉地方事務官，18.3.31，7 等級，18.3.31 セラム民政部部員，19.2.1 第24 海軍建設部部員，21.5.23 復員[277]。

大日方秋男，18.5.22，6 等級，18.5.22 セラム民政部部員，19.2.1 第25 海軍建設部トアール支部長，19.2.21 第25 海軍建設部部員兼第4 南遣艦隊司令部付，20.3.10 免兼職，21.6.15 免官[278]。

大橋省吾，〈台湾〉台湾総督府属，19.2.15，7 等級，18.7.22 セラム民政部書記，19.2.15 第26 海軍建設部部員，19.9.8 南方政務部付，20.4.11 戦死[279]。

小口三蔵（大14 東法），販売業，19.8.17，7 等級，17.6.15 セラム民政部書記（政務課），18.12 アンボン市庁，19.2.1 第25 海軍建設部書記，21.7.7 復員，21.8.15 免官[279]。

大島益太，〈内務〉内務属（地方局），19.9.5，7 等級，19.9.5 小スンダ民政部部員，19.12.14 バトン分県，21.8.27 復員[279]。

大倉岩義（明44 高小），〈内務〉鹿児島県警部，19.10.18，7 等級，18.3.31 セラム民政部警部，21.7.26 復員[279]。

尾上高一，〈NHK〉NHK 書記，19.10.31，7 等級，18.1.22 セラム民政部書記，19.5.1 南西方面海軍民政府書記，22.1.29 復員[279]。

梶原真男，〈内務〉地方農林技師，17.6.19，6 等級，17.6.19 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員[280]。

木村重喜，〈内務〉警視庁警部，19.8.19，7 等級，18.8.3 セラム民政部警部，19.8.19 海軍司政官・第26 海軍建設部，22.5.7 復員[283]。

国本重一（大10 農林校），〈内務〉地方事務官，18.3.31，7 等級，18.3.31 セラム民政部部員，19.2.1 第25 海軍建設部部員，21.5.29 復員[284]。

栗田長三郎，〈海軍〉海軍書記，18.10.15，7 等級，18.10.15 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.7.15 免官[284]。

黒田義晴（昭8 通吏），〈通信〉検閲官補，19.2.15，7 等級，17.3 セラム民政部書記（アンボン），18.12 バリ島移転，19.2.15 小スンダ民政部部員，19.9.5 南方政務部付，19.12 帰国，20.3.1 通信院属[284]。

後藤亮三郎（昭10 医大），〈内務〉防疫医（兵庫県），17.6.20，5 等級，17.6.20 セラム民政部衛生部防疫

課長, 19.2.1 小スンダ民政部部員, 19.6.25 南西方面海軍民政府局員 (セレベス民政部政務部第 8 課長), 20.1.10 南方政務部付, 21.7.15 復員 [285]。

河野光司, 〈通信〉通信書記, 17.12.20, 7 等級, 17.12.10 セラム民政部部員 (シンガラジャ郵便局長), 19.2.1 第 25 海軍建設部部員, 19.2.21 兼第 4 南遣艦隊司令部付, 20.3.10 免兼職 [285]。

国分豊蔵, 〈内務〉地方事務官, 18.5.21, 5 等級, 18.5.21 セラム民政部部員, 19.2.1 第 24 海軍建設部部員, 19.2.21 小スンダ民政部部員 (官房主事), 21.9.15 復員 [285]。

小沼次男, 18.6.19, 7 等級, 18.6.19 セラム民政部部員, 19.2.1 第 24 海軍建設部部員, 21.5.25 復員, 21.6.15 免官 [286]。

小峰友雄 (昭 7 東法), 〈台湾〉総督府事務官, 18.7.14, 6 等級, 18.7.14 セラム民政部部員, 19.2.1 小スンダ民政部部員 (財務課長), 22.1.29 復員 [286]。

小玉明, 18.7.31, 7 等級, 18.7.31 セラム民政部部員, 19.2.1 小スンダ民政部部員, 20.8.15 南方政務部付, 20.10.25 依願免本官 [286]。

児玉需人, 18.8.9, 6 等級, 18.8.9 セラム民政部部員, 19.2.1 小スンダ民政部部員 [286]。

小金井健男 (昭 5 東経), 〈内務〉警保局事務官, 18.8.11, 4 等級, 18.8.11 南西方面海軍民政府官房文書課長, 19.5.1 小スンダ民政部経済部長, 20.1.4 兼小スンダ民政部政務部長, 21.5.14 復員, 21.6.15 内務事務官 [286]。

小坂寛見 (昭 6 城高商), 〈拓務〉拓務属, 19.1.18, 7 等級, 17.3.10 第 3 艦隊司令部付, 18.8.24 セラム民政部書記, 19.2.1 第 25 海軍建設部部員, 19.9.8 南方政務部付, 20.9.22 外務省調査官 [286]。

河野恒雄 (昭 11 東法), 〈台湾〉農林省事務官, 19.9.2, 6 等級, 19.9.2 小スンダ民政部部員 (農林水産課長), 21.6.15 復員 [287]。

幸野弘道 (大阪商船), 〈通信〉運輸通信技師, 19.10.18, 5 等級, 19.10.18 小スンダ民政部部員, 21.7.15 復員 [287]。

小粥新一郎 (大 7 斐太中学), 〈通信〉通信書記, 19.10.18, 7 等級, 19.10.18 小スンダ民政部部員, 22.1.30 通信事務官 [287]。

斉藤首 (大 3 明治薬学校), 〈内務〉大阪府衛生主事, 18.3.31, 6 等級, 18.3.31 セラム民政部部員 (フロレス島), 19.2.1 第 24 海軍建設部部員, 19.10.1 南方政務部付, 21.10.5 地方事務官 [288]。

坂本幸司, 〈内務〉三重県属, 18.3.31, 7 等級, 18.3.31 セラム民政部部員, 19.2.1 第 25 海軍建設部部員, 21.6.17 復員 [288]。

堺田真夫 (昭 9 東法), 〈内務〉内務事務官, 18.6.25, 5 等級, 17.3 南西方面艦隊司令部付, 18.6.25 セラム民政部部員 (スンパワ島駐在), 18.12.8 運輸通信事務官 [288]。

斉藤一 (昭 7 明法), 〈内務〉東京都書記, 19.4.28, 7 等級, 17.7.17 セラム民政部書記, 19.2.1 小スンダ民政部部員, 22.1.29 復員 [289]。

境田功 (昭 9 早法), 〈大蔵〉, 19.10.18, 7 等級, 18.8.6 セラム民政部書記, 21.6.15 復員 [289]。

笹目三徳, 〈内務〉山形県属, 19.11.24, 7 等級, 19.11.24 小スンダ民政部部員, 20.5.20 南方政務部付, 20.9.5 地方事務官 [289]。

志村忠六、〈内務〉地方事務官（山梨県）、18.3.31、7 等級、18.3.31 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.2.21 第 24 海軍建設部ワインガップ支部長、19.5.11 第 24 海軍建設部部員、23.1.9 復員 [290]。

塩谷薫夫、〈内務〉山口県属、18.3.31、7 等級、セラム民政部部員、19.2.1 第 24 海軍建設部部員 [290]。

渋谷茂、〈内務〉内務属、18.7.31、7 等級、18.7.31 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、20.5.4 戦死 [290]。

鈴木謙介、情報局情報官、18.3.31、7 等級、18.3.31 セラム民政部部員、18.4.28 戦死（鎌倉丸） [291]。

杉山一人、〈内務〉地方事務官、18.7.12、7 等級、18.7.12 セラム民政部部員、19.2.1 第 24 海軍建設部ワインガップ支部長、19.2.21 第 24 海軍建設部部員、21.6.16 復員 [292]。

田代猛、〈NHK〉熊本中央放送局経理課長、17.12.28、7 等級、17.12.28 セラム民政部部員（アンボン放送局長）、19.2.1 小スンダ民政部部員（バリ島放送局長）、19.5.1 南西方面海軍民政府局員、22.4.5 復員 [293]。

田中博隆（大 12 明大法）、〈内務〉地方事務官（奈良県農林主事）、18.3.31、6 等級、18.3.31 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.7.20 南方政務部付、20.10.25 免官 [294]。

田中登（昭 8 慶大経）、川崎航空機、18.7.5、7 等級、17.6.15 セラム民政部書記、19.2.1 第 24 海軍建設部部員、19.3.5 第 25 海軍建設部部員、21.7.15 免官 [294]。

大堂隆道（大 7 農校）、〈内務〉地方事務官、18.7.20、7 等級、18.7.20 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、21.8.28 復員 [294]。

高木忠昌、18.8.9、7 等級、18.8.9 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.2.21 第 25 海軍建設部部員兼第 4 南遣艦隊司令部付、20.3.10 免兼職、21.5.29 復員、21.6.15 免官 [294]。

鶴我盛隆、18.12.17、5 等級、18.12.17 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員（ロンボック県中部分県監理官）、21.8.27 復員、21.9.15 免官 [296]。

角田恒雄、〈大蔵〉門司税関事務官補、19.10.18、7 等級、18.4.19 セラム民政部書記、19.10.18 小スンダ民政部部員、22.1.30 復員 [297]。

寺田孝一、〈内閣〉統計局統計官、18.3.8、6 等級、18.3.8 南西方面艦隊民政府局員（官房→総務局）、19.12.9 フロレス県監理官、21.5.24 復員 [297]。

富田彦二郎（昭 3 東高師）、〈内務〉秋田県事務官、18.7.7、4 等級、18.7.7 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、19.2.21 第 24 海軍建設部クーパン支部長、19.5.11 第 24 海軍建設部部員、21.6.15 免官 [297]。

泥川清孝、〈内務〉地方職業官、19.1.10、7 等級、19.1.10 セラム民政部部員、19.2.1 小スンダ民政部部員、21.7.15 地方事務官 [297]。

成良一郎（昭 11 東法）、〈内務〉岐阜県農務課長、18.1.6、5 等級、18.1.6 セラム民政部部員、19.2.1 第 25 海軍建設部部員、19.2.21 兼第 4 南遣艦隊司令部付（政務隊長）、20.3.1 免兼職、21.6.22 復員、21.6.30 内務事務官 [298]。

中牟田健、〈内務〉北海道庁属、18.3.31、7 等級、18.3.31 セラム民政部部員、19.8.28 戦死 [299]。

中野弘，大政翼賛会書記，19.10.6，7 等級，17.7.17 セラム民政部書記，22.1.29 復員 [300]。

西尾利一，〈内務〉地方事務官，18.7.20，7 等級，18.7.20 セラム民政部部員，19.2.1 第 26 海軍建設部部員，21.6.18 復員 [300]。

林光男（大 4 三重一中），〈内務〉三重県地方事務所長，18.3.31，7 等級，18.3.31 セラム民政部部員，18.5 ロンボック県東部分県監理官，19.1 ロンボック県総務課長，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.6.21 復員 [302]。

原源三（大 9 園芸校），〈文部〉長野県農林学校教諭，18.9.1，7 等級，18.9.1 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.5.16 復員 [303]。

日高与三郎，〈内務〉宮崎県警部，18.3.31，7 等級，南西方面艦隊民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，19.7.10 依願免本官 [305]。

平林武春（大 12 金沢医専），〈内務〉内務技師（長野県）医博，19.9.22，4 等級，19.3.15 海軍技師，19.9.22 海軍司政官・小スンダ民政部部員，21.6.22 復員 [305]。

藤井甲子郎，〈文部〉公立中学校教諭，19.8.9，6 等級，19.8.9 小スンダ民政部部員，19.12.15 バリ島デンパサール県文教課長，21.5.16 復員 [306]。

増田日男（昭 8 東経），19.1.18，6 等級，19.1.18 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.7.7 復員，21.8.15 免官 [309]。

宮地茂（昭 16 広文理大），〈文部〉文部属，18.3.31，7 等級，18.3.31 セレベス民政部部員，18.4-18.7 興南錬成院生，18.8.27 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，19.6.18 文部属 [310]。

三崎正男，18.8.9，7 等級，18.8.9 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，19.2.21 第 25 海軍建設部部員，21.6.15 免官 [310]。

村山久助，〈内務〉警視庁警部，19.10.18，7 等級，18.8.3 セラム民政部警部，19.10.18 小スンダ民政部部員，22.5.16 復員 [311]。

森本金次，〈内務〉地方事務官，18.12.10，6 等級，18.12.10 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員，21.5.24 復員 [312]。

森岡秀雄（昭 15 東経），〈内務〉熊本県農水産課長，19.6.5，6 等級，19.6.5 セレベス民政部部員，19.8.20 小スンダ民政部部員（交通課長），21.6.30 内務事務官 [312]。

矢島禎一，〈大蔵〉税関事務官，18.7.7，6 等級，17.1 第 3 艦隊司令部付，17.3.10 セレベス民政部，17.6.8 同バリ出張所所員，18.7.7 セラム民政部部員，19.8.3 海運局事務官 [314]。

矢野嘉（昭 10 東文理大），〈文部〉樺太師範学校教授，18.7.31，6 等級，18.7.31 セラム民政部部員，19.2.1 小スンダ民政部部員 [314]。

山本高雄（昭 9 中専法・昭 11 高文），〈内務〉山口県農政課長，19.7.18，5 等級，19.7.18 小スンダ民政部部員，19.9.25 セレベス民政部經濟部一課長，21.5.23 復員，21.6.15 内務事務官 [314]。

渡部彌作（大 15 東工），〈内務〉内務技師，17.6.20，3 等級，19.6.20 兼海軍司政官・セラム民政部經濟部土木課長，17.12.19 専任海軍司政官，18.6.2 南西方面海軍民政府交通土木局土木課長，19.5.1 交通土木局第二課長，19.8.25 南方政務部付，19.9.27 運輸通信技師 [316]。

和田恒章（昭3早政経），〈内務〉千葉県属，18.3.31，7等級，18.3.31 セラム民政部部員，19.2.1 第24海軍建設部部員，21.6.20 復員[316]。

綿引虎男（大9通吏），〈通信〉通信局事務官，18.8.9，5等級，18.8.9 セラム民政部部員，19.2.1 小スندگان民政部部員（通信課長），21.9.15 通信事務官[317]。

若月可直（大9東農大予），〈内務〉（大阪府農林主事），18.11.20，5等級，18.11.20 セラム民政部部員，19.2.1 小スندگان民政部部員（スンバワ県監理官），21.5.10 復員[317]。

死没による海軍司政官昇格者

我孫子喜彰，〈内務〉愛知県属，18.4.28，7等級，18.3.25 セラム民政部技手，18.4.28 戦死・司政官[318]。

鈴木一夫，〈通信〉通信書記，19.7.31，7等級，19.3.31 第26建設部技手，19.7.31 戦死・司政官[319]。

仙波祐信，〈内務〉愛知県属，18.4.28，7等級，18.3.27 セラム民政部書記，18.4.28 戦死・司政官[319]。

中西克，〈NHK〉，18.8.21，7等級，17.2.1 セラム民政部書記，18.8.21 戦死・司政官[320]。

西井順之助，〈内務〉三重県警部，18.4.28，7等級，18.3.22 セラム民政部警部，18.4.28 戦死・司政官[320]。

原寛一，18.4.28，7等級，18.3 セラム民政部書記，18.4.28 戦死・司政官[320]。

比嘉政正，〈内務〉沖縄県警部補，20.4.11，7等級，18.3.31 第104建設部カウ支部，19.2.1 海軍警部・第26建設部，20.4.11 戦死・司政官[321]。

藤本貞秋，〈内務〉香川県属，18.4.28，7等級，18.3 セラム民政部書記，18.4.28 戦死・司政官[321]。

牧野義夫，〈大蔵〉，19.8.20，7等級，第4南遣艦隊司令部付，19.8.20 ニューギニアで戦死・司政官[321]。

海軍嘱託

岩瀬繁一（昭8東法），〈内務〉，17.1，〈セラム〉[332]。

梅津八重蔵，〈読売新聞〉，18.9.5，セラム新聞社長[332]。

塩見俊二（昭5東法），〈台湾〉総督府金融課長，17.2.5，17.2 第3艦隊司令部付，17.5 アンボン勤務，18.7.14 免[333]。

三浦襄，〈民間〉，17.7，17.7 セラム民政部（バリ島），20.9 自決[334]。

村上正雄，〈読売新聞〉婦人部長，17.11，17.11 セラム新聞社長，18.1.23 墜死[334]。

海軍技師

和田平八郎（昭10京農），〈農林〉技師，18.7.12，5等級，18.7.12 セラム民政部，19.2 小スندگان民政部，19.6 農商技師[344]。

付記 本稿作成にあたっては，早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程の高橋茂人氏の協力を得た。記して謝意を表したい。